

令和元年度
敦賀市教育委員会の自己点検・評価報告書

敦 賀 市 教 育 委 員 会

— 目 次 —

はじめに	1
敦賀市教育大綱（概要版）	2
総合計画数値目標との比較	3
＜各課（まとめ）＞	
教育総務課	4
学校教育課	1 2
○給食センター	2 7
生涯学習課	3 0
○図書館	3 9
○プラザ萬象	4 4
○少年愛護センター	4 6
○少年自然の家	4 9
文化振興課	5 1
○博物館	5 7
○みなとつるが山車会館	6 0
スポーツ振興課	6 2
○総合運動公園	7 1
外部の知見	
○福井県立大学学術教養センター 黒田祐二 …	7 2
○福井県立大学経済学部 桑原美香 …	7 6
(巻末)	
敦賀市教育委員会事務の自己点検・評価（マニュアル）	8 0

はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により、平成20年度から教育委員会の事務の管理及び執行の状況について、自己点検・評価を実施するよう規定され、本市教育委員会においても、事務局の各部署の事務について実施しております。

このたび令和元年度分の自己点検・評価の報告書を作成いたしました。評価方法は、各部署において執行している事務について、予算の項目ごとに評価しました。従って、報告の形式は、各部署の管理し執行する事務、中でも注視すべき事務を評価項目に加え「事業名」とし、管理執行した事務は「取組み状況と成果」に記載し、これに基づき「成果の分析と評価」をいたしました。

「評価」は「有効性」、「効果性」、「効率性」をそれぞれ、アルファベットのA「前進」、B「維持」、C「後退」の三段階で表わしました。

「今後の方向」は①継続、②完了、③拡大、④縮小、⑤転換、⑥中止の6項目で表しました。

「分類」は教育委員会が執行する事務がどのように法令等に基づいているかを分類したものです。

自己点検・評価に際しては、外部の知見を活用するため、事業ごとに評価調書を作成のうえ、学校評価に見識をお持ちの福井県立大学学術教養センター 黒田祐二先生、地方財政に見識をお持ちの福井県立大学経済学部 桑原美香先生のお二人にご意見をいただきました。

また、第6次総合計画後期基本計画の数値目標については、その達成状況と分析に努め、人事・組織の見直し、予算の計上・削減、事務の改善・廃止等に活かしていきたいと考えております。



敦賀市教育大綱（概要版）

－教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策－

教育目標 ふるさと敦賀を愛し、知性に富み、心豊かで、健康な人の育成

基本理念

「白砂青松」の地である敦賀を愛し、郷土の発展に貢献する活力ある人材を育成するため、家庭・学校・地域が一体となって、先人が築き上げた伝統を受け継ぎ、「人道の港」敦賀ならではの魅力ある教育を推進する。



ふるさと敦賀の花「はぎ」

基本方針

(1) 学校教育の充実

- 施策 ① 学びの芽生えを育む幼児教育の推進
- 施策 ② 自ら考え、行動する力を身に付ける教育の推進
- 施策 ③ 社会のグローバル化に対応できる外国語教育の推進
- 施策 ④ 個々のニーズに合わせた特別支援教育の推進
- 施策 ⑤ 健やかな体の育成を目指した健康・安全教育の推進
- 施策 ⑥ いじめや不登校を予防し、防止する生徒指導体制の推進
- 施策 ⑦ 児童・生徒数や社会の変化に対応した学校の整備
- 施策 ⑧ 社会の変化に応じた教育活動を行うための教職員の資質及び指導力の向上



ふるさと敦賀の木「まつ」



ふるさと敦賀の鳥「ユリカモメ」

(2) 社会教育の充実と活性化

- 施策 ⑨ 活力ある地域社会の形成
- 施策 ⑩ 社会的な課題に対応する生涯学習の推進
- 施策 ⑪ 社会教育施設の整備・充実
- 施策 ⑫ 地域等と連携した青少年の健全育成

(3) 文化の振興・支援

- 施策 ⑬ 文化意識の向上
- 施策 ⑭ 市民文化の活動拠点の整備・充実
- 施策 ⑮ 文化財の保護・支援
- 施策 ⑯ 文化財の活用の推進

(4) スポーツの振興及び推進

- 施策 ⑰ 国体開催を契機としたスポーツの振興
- 施策 ⑱ 生きがいと健康づくりとしてのスポーツの振興
- 施策 ⑲ 人のつながりを再生するスポーツ交流の推進
- 施策 ⑳ スポーツ施設の整備



敦賀市公認キャラクター「よっしー」

第6次敦賀市総合計画 後期基本計画の数値目標との比較					
第5章 心豊かな人を育むまちづくり					
基本計画		実施計画			
名称	基本的な方向性	名称	内容	指標	
				R1年度末数値	目標年度(R2)
第1節 人材育成の充実	(1)幼稚園教育の充実	公立幼稚園改善計画	幼稚園児数	72人	120人
	(2)義務教育の充実	小中学校施設充実化計画	快適かつ安心安全な学習環境の実現	-	実現
		敦賀市「知・徳・体」充実計画	角鹿中学校を中心とする小中一貫校の設立	-	事業着手
		次世代学校給食あり方検討計画	学校給食センターのあり方に関する方針	-	事業着手
(4)青少年の健全育成	青少年健全育成計画	愛の一声運動の人数	636人	1,400人	
第2節 社会教育の活性化	(1)多機能性を活かした地域づくり拠点の形成	生涯学習推進計画	公民館活動への参加者数	63,798人	70,000人
		生涯学習施設維持管理計画	生涯学習施設の利用者数	138,331人	130,000人
	(2)集客性を活かしたまちづくりの拠点の形成	図書館利用促進計画	図書館利用者数	203,490人	230,000人
		(3)文化・芸術の振興と文化財等の保護及び活用	文化活動推進計画	文化行事参加者数	22,978人
	文化財整備活用計画		指定・登録文化財数	213件	209件
	博物館郷土文化力向上計画		見学者アンケートの満足度(%)	87.7	90
	文化活動拠点維持管理計画		山車会館利用者数	7,734人	19,300人
第3節 スポーツの振興	(1)福井しあわせ元気国体における敦賀市開催方針の実現	福井しあわせ元気国体推進計画	国体の開催	-	実現
	(2)福井しあわせ元気国体後のフォローアップの展開	競技レベル向上推進計画	各事業の参加者数	2,354人	4,200人
		コミュニティスポーツ推進計画	各事業の参加者数	4,123人	5,500人
	(3)健康づくりとしてのスポーツの振興	生涯スポーツ推進計画	各事業の参加者数	5,910人	7,750人
		(4)スポーツ施設の整備	スポーツ施設維持管理計画	地区体育館等のスポーツ施設の総利用者数	335,585人

教育総務課 自己点検・評価報告書（まとめ）

教育総務課では、学校施設の整備に関することを担っています。特に、本市では、全市的に小中一貫教育を推進しており、福井県内の公立学校で初めてとなる小中一貫校の角鹿小中学校の開校を令和3年4月に控えて設置に向け取り組んでいます。

また、教育委員会事務局の各課の連絡調整に関することも担っており、教育委員会の会議及び総合教育会議の運営に関すること、本市の教育行政の大きな方針を示した「教育大綱」に基づき、より具体的な施策を定めた「教育振興基本計画」に関する事務に取り組んでいます。

教育委員会の運営について

教育委員会は毎月開催し、議案の審議や各事業の方針を決定しています。

教育委員会や行事等への参加を推進することができ、報告事項・審議事項を滞りなく決議できました。「敦賀市教育振興基本計画」の進捗管理や各教育分野の諸課題について、課題が発生した時点で議題とし、委員の意見を反映し、より良い教育行政の推進に努めることができました。

教育委員会事務局職員の人事について

教育委員会事務局には、学校勤務の調理員・用務員等を含む約230名の非正規職員が勤務しています。令和2年4月1日から「会計年度任用職員」制度が始まりましたが、このような非正規職員に対し、事前に制度の説明会等を実施するなど、制度移行後も安心して勤務できるよう努めました。今後は、会計年度任用職員の処遇等を担当する総務部総務課とも連携し、休暇取得手続きなど各種対応を円滑に進められるよう努めてまいります。

角鹿中学校区小中一貫校設置準備委員会及び小中一貫校整備事業について

角鹿中学校及び敦賀北・赤崎・咸新小学校を統合した小中一貫校の設置に向けて、統合の実現に必要な課題の解決や準備事項についての検討を行う委員会を開催しました。

令和元年度は、設置準備委員会を1回、専門部会である総務部会を1回、学校運営部会を2回、PTA部会を1回開催しました。

総務部会では、公募や投票を行い小中統一で新しい校章デザインを決定するとともに、各小学校跡地の利活用について協議しました。学校運営部会では、新しい学校の制服、体操服、通学カバン、帽子、名札、運動靴、インナーを決定しました。PTA部会では、4つのPTA組織統合に向けた協議を行うとともに、咸新小学校区を中心に通学方法について検討を行い市教育委員会へスクールバスに関する要望書を提出しました。以上、令和元年度で開校に必要な準備事項について本委員会で決定すべき事項は全て議論を終え、令和2年度は学校やPTAで組織される準備委員会等で開校に向けた協議を進めます。

また、施設整備については、施設整備部会での議論を反映した実施設計をもとに、

校舎新築工事、メインアリーナ大規模改造工事、外構施設撤去工事に着手し、校舎新築工事については引き続き令和2年度中の完成を目指し現在工事を進めています。さらに、令和3年度はサブアリーナ・児童クラブ新築工事、メイングラウンド整備工事、駐車場工事、令和4年度はサブグラウンド整備工事、正門棟整備工事等、各種関連工事が続くため、周辺住民への説明、負担軽減を図るとともに、既存校地を利用した「居ながら工事」となるため、刻々と変わる工事箇所に対応し、工事車両と児童生徒の動線の区分や学校行事との調整等、児童生徒の安全確保を第一に進めてまいります。

学校施設の整備、管理運営及び備品等の購入について

学校施設の整備につきましては、市内の小中学校の校舎、体育館はいずれも年数が経過しており老朽化が目立ってきていますが、全ての工事を一度に実施することは不可能であります。そのため、担当職員による現場視察や教員への聞き取りを行うなどし、優先順位をつけて整備を進めておりますが、順位付けの根拠が曖昧なことが課題としてあります。今後は、各施設の実態調査結果に基づき令和2年度末までに策定する「長寿命化計画」を参考に、現場視察等も行った上で優先順位をつけ、計画的に整備を進めてまいります。

備品等の購入につきましては、限られた予算を有効に活用するため、毎年度現場の要望を把握し、学校全体の優先順位をつけて行っています。今後も各学校と連携し、計画的に整備を進め、教育環境の充実を図ってまいります。

教育総務課

【教育総務課の事務分掌】

- (1) 教育委員会の会議に関すること
- (2) 公印の保管に関すること
- (3) 事務局、学校その他教育機関の職員(県費負担教職員を除く。)の人事に関する
こと
- (4) 職員の身分・サービス及び給与の負担行為に関すること
- (5) 学校の設置・管理及び改廃に関すること
- (6) 学校教育の用に供する財産の管理に関すること
- (7) 学校の施設及び設備(備品を含む。)の整備に関すること
- (8) 教育委員会の所轄に属する財産(教育財産を除く。)の管理に関すること
- (9) 教育目的のための基本財産及び積立金の管理に関すること
- (10) 教育委員会規則の制定又は改廃に関すること
- (11) 教育財政に係る調査及び統計に関すること
- (12) 事務局内の取締り及び庁内管理に関すること
- (13) 文書の收受、浄書・発送及び保管に関すること
- (14) 市長・市議会及び市の各課(室)との連絡に関すること
- (15) 県教育委員会その他の教育委員会及び事務局各課(室)との連絡調整に関する
こと
- (16) 職員の研修及び福利・厚生に関すること
- (17) 教育行政に関する相談に関すること
- (18) 前各号のほか他課に属しない事項

【教育委員の氏名】

教育長	上野 弘
教育長職務代理者	神谷 敬一郎
委員	岸本 松則
委員	中宮 智子
委員	堺 啓輔

【自己点検・評価】

事業名	取組み状況と成果	成果の分析と評価	今後の方向	分類									
教育委員会の開催	<p>平成31年4月から令和2年2月までに11回の教育委員会を開催し、次の事項について審議しました。</p> <p>○平成31年第3回教育委員会(4月12日)</p> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回教育委員会議事録の件 ・共催、後援事業19件 <p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名勝おくのほそ道の風景地けいの明神(氣比神宮境内)保存活用計画策定準備委員会委員委嘱の件 ・柴田氏庭園保全整備委員会委員委嘱の件 ・敦賀市文化財保護審議会委員委嘱の件 ・敦賀市立図書館開館時間の変更の件 ・敦賀市文化芸術事業企画審査委員会委員委 	<p>議案はすべて順調に審議され、委員会の運営の効率化を図ることができました。</p>	<table border="1" style="border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">有効性</td> <td style="padding: 2px;">A</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">効果性</td> <td style="padding: 2px;">A</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">効率性 (コスト)</td> <td style="padding: 2px;">B</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">効率性 (人員)</td> <td style="padding: 2px;">B</td> </tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続	I-1
有効性	A												
効果性	A												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												

	<p>囑の件</p> <p>○平成31年第4回教育委員会（5月8日）</p> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3回教育委員会議事録の件 ・共催、後援事業18件 <p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敦賀市学校業務改善方針の件 ・平成31年度学校評議員委嘱の件 ・敦賀市指定文化財の指定について市文化財保護審議会に諮問する件 ・敦賀市文化財保護審議会委員追加委嘱の件 ・平成31年度敦賀市教育支援委員会委員委嘱の件 ・敦賀市スポーツ振興審議会委員任命の件 <p>○第5回教育委員会（6月14日）</p> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第4回教育委員会議事録の件 ・寄附採納の件1件 ・共催、後援事業30件 ・令和元年6月補正予算の件 <p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敦賀市社会教育委員補欠委員委嘱の件 ・敦賀市公民館運営審議会補欠委員委嘱の件 ・敦賀市図書館協議会委員の変更の件 ・敦賀市少年愛護センター運営委員会委員変更委嘱の件 ・敦賀市立少年自然の家運営協議会委員委嘱の件 ・敦賀市立博物館協議会委員並びに敦賀市立博物館調査研究員委嘱の件 ・敦賀市指定文化財の指定の件 <p>○第6回教育委員会（7月9日）</p> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5回教育委員会議事録の件 ・寄附採納の件1件 ・後援、共催事業5件 <p>審議事項</p> <p>なし</p> <p>○第7回教育委員会（8月6日）</p> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第6回教育委員会議事録の件 ・共催、後援事業4件 <p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度福井県義務教育諸学校教科用図書採択決議の件 ・敦賀市通学区審議会委員の委嘱の件 ・名勝おくのほそ道の風景地けいの明神（氣比神宮境内）保存活用計画策定準備委員会委員委嘱の件 ・史跡武田耕雲斎等墓保存整備委員会委員委嘱の件 <p>○第8回教育委員会（8月27日）</p> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第7回教育委員会議事録の件 ・共催、後援事業7件 ・令和元年9月補正予算の件 <p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敦賀市教育認定子どものための教育・保育に係る利用者負担額等に関する規則を廃止する規則制定の件 ・敦賀市社会教育委員補欠委員委嘱の件 ・敦賀市少年愛護センター補導員解嘱の件 			
--	---	--	--	--

	<p>○第9回教育委員会（10月9日） 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第8回教育委員会議事録の件 ・共催、後援事業13件 <p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敦賀市立学校小規模特認校の就学等に関する要綱の制定の件 ・敦賀市立図書館協議会委員委嘱の件 ・令和元年度教育委員会表彰規程に基づく被表彰候補者の件 <p>○第10回敦賀市教育委員会（11月6日） 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第9回教育委員会議事録の件 ・共催、後援事業4件 <p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敦賀市立角鹿小学校及び角鹿中学校に係る校章制定の件 <p>○第11回敦賀市教育委員会（11月22日） 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第10回教育委員会議事録の件 ・共催、後援事業4件 ・令和元年度12月補正予算の件 <p>審議事項 なし</p> <p>○令和2年第1回敦賀市教育委員会（1月7日） 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第11回教育委員会議事録の件 ・寄附採納の件1件 ・共催、後援事業8件 <p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敦賀市少年愛護センター補導員変更委嘱の件 <p>○令和2年第2回敦賀市教育委員会（2月4日） 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回教育委員会議事録の件 ・共催、後援事業5件 <p>審議事項 なし</p> <p>○令和2年第3回敦賀市教育委員会（2月18日） 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回教育委員会議事録の件 ・共催、後援事業13件 ・令和元年度3月補正予算・令和2年度当初予算の件 <p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度福井県義務教育諸学校教科用図書採択嶺南地区協議会の設置の件 												
<p>専門委員等の委嘱及び任命等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・名勝おくのほそ道の風景地けいの明神（氣比神宮境内）保存活用計画策定準備委員会委員1名委嘱 任期：平成31年3月20日～ 同計画策定委員会設置の日まで ・柴田氏庭園保全整備委員会委員委嘱 任期：平成31年5月1日～ 令和3年4月30日 ・敦賀市文化芸術事業企画審査委員会委員4名委嘱 任期：平成31年5月7日～ 	<p>委員の適格・適任について審議し、委嘱及び任命しました。 その際に、各種関係機関、団体との連携や専門的な知識が必要とされることを重視しました。</p>	<table border="1"> <tr> <td>有効性</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>B</td> </tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	<p>①継続</p>	<p>I - 1</p>
有効性	A												
効果性	A												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												

	<p>令和2年3月31日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員135名委嘱 任期：平成31年4月1日～ 令和2年3月31日 ・敦賀市文化財保護審議会委員1名委嘱 任期：令和元年5月9日～ 令和3年4月30日 ・敦賀市教育支援委員会委員35名委嘱 任期：平成31年4月1日～ 令和2年3月31日 ・敦賀市スポーツ振興審議会委員8名委嘱 任期：令和元年6月1日～ 令和3年5月31日 ・敦賀市社会教育委員補欠委員1名委嘱 任期：令和元年6月14日～ 令和2年5月31日 ・敦賀市公民館運営審議会補欠委員10名委嘱 任期：令和元年6月14日～ 令和2年5月31日 ・敦賀市立図書館協議会委員1名委嘱 任期：平成31年4月1日～ 令和元年8月31日 ・敦賀市通学区域審議会委員委嘱 任期：第1回審議会開催日～ 2年間 ・名勝おくのほそ道の風景地けいの明神(氣比神宮境内)保存活用計画策定準備委員会委員1名委嘱 任期：令和元年8月19日～ 同計画策定委員会設置の日まで ・史跡武田耕雲斎等墓保存整備委員会委員7名委嘱 任期：令和元年9月1日～ 令和3年8月31日 ・敦賀市社会教育委員補欠委員1名委嘱 任期：令和元年8月27日～ 令和2年5月31日 ・敦賀市立図書館協議会委員10名委嘱 任期：令和元年10月1日～ 令和3年9月30日 ・敦賀市少年愛護センター補導員1名変更委嘱 任期：令和元年6月1日～ 令和3年5月31日 												
<p>条例・規則等の制定及び改正</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・敦賀市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則 ・敦賀市教育委員会事務決裁規程の一部を改正する訓令 ・敦賀市教育認定子どものための教育・保育に係る利用者負担額等に関する規則を廃止する規則 ・敦賀市立小学校及び中学校の管理規則の一部を改正する規則 ・敦賀市立学校教職員の勤務時間に関する規則の一部を改正する規則 ・敦賀市少年愛護センターの設置に関する条例施行規則の一部を改正する規則 	<p>委員の任命基準の設定や法律変更等に伴う関係条例等の制定及び改正を行いました。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">有効性</td> <td style="width: 50%;">B</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>B</td> </tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	<p>①継続</p>	<p>I - 8</p>
有効性	B												
効果性	B												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												

校舎等改良及び補修工事	各学校に必要な補修工事を実施しました。 ・中郷小学校普通教室床塗装改修工事 外5 ・東浦中学校正門扉改修工事 外3	いずれも、老朽化対応や教育環境向上に伴う改修であり、緊急を要するため早急に対処しました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>A</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	A	①継続	Ⅱ-5 Ⅱ-6
有効性	A												
効果性	A												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	A												
小学校給排水設備改修事業	松原小学校の西側児童トイレの洋式化を実施しました。	計画的に工事を進め、学校環境の改善が図られました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>A</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	A	①継続	Ⅱ-5 Ⅱ-6
有効性	A												
効果性	A												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	A												
非構造部材耐震補強事業	粟野小学校体育館の外壁のクラック補修及びモルタル浮き部へのエポキシ樹脂注入、吹付改修を実施しました。	計画的に工事を進め、児童の安全確保や避難所としての機能を確保できました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>A</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	A	①継続	Ⅱ-5 Ⅱ-6
有効性	A												
効果性	A												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	A												
教育振興備品の購入	6月頃予算を各学校に配分し、各学校の要求に優先順位を付け、必要な教材備品を購入しました。購入時期は、利用の期日に合わせ適切に設定しました。 また、必要な小学校の鼓隊、中学校のプラスバンドの備品、理科振興備品及び特別支援学級の備品等を適正に整備しました。	各学校と綿密に協議し、要求に添うよう対応することで、良好な教育環境の充実を図ることができました。教育活動に必要な備品が整備でき、学習効果を高めることができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続	Ⅱ-5
有効性	B												
効果性	B												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												
角鹿中学校区小中一貫校設置準備委員会関係経費	老朽化する学校施設への対応や児童生徒のより良い学習環境の向上等を目指し、角鹿中学校、敦賀北、赤崎及び咸新小学校を統合した小中一貫校の設置に向けて、統合の実現に必要な課題の解決や準備事項について検討・調整を行う「角鹿中学校区小中一貫校設置準備委員会」を開催しました。	長年の懸案事項であった同校の設置について、具体的かつ前向きな検討を行い、設置に向けた諸課題について検討・調整することができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>A</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性 (コスト)	A	効率性 (人員)	A	②完了	I-2
有効性	A												
効果性	A												
効率性 (コスト)	A												
効率性 (人員)	A												
教育功労者の表彰	敦賀市の教育行政に功労のあった個人及び団体に対し、功労賞及び奨励賞を授与しました。 表彰式：令和元年11月13日実施 受賞者： 教育功労賞 敦賀俳句作家協会 教育功労賞 敦賀市民合唱団 教育奨励賞 滝本 充 (角鹿中学校教諭) 体育奨励賞 上山 幸之進 (前 敦賀市スポーツ推進委員協議会長) 計 団体2団体 個人2名	教育功労者の選定、表彰式とも計画的に実施できました。表彰候補者については、潜在者の掘り起しが必要です。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続	I-16
有効性	B												
効果性	B												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												
教育委員会事務事業評価	平成30年度教育委員会事務の自己点検・評価を実施し、9月議会へ報告書を提出しました。	所管事務の評価により改善点の発見につながりました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続	I-17
有効性	B												
効果性	B												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												

学校管理運営	<p>学校施設の保守管理として廃棄物処理や、設備等の法定点検にかかる各種委託事業を実施しました。</p> <p>また、各学校の電気、水道料金等の光熱水費を支払いました。</p> <p>管理運営に必要な消耗品の購入や小修繕に必要な経費は、予算を年度当初に各学校に配分し、その範囲で必要な消耗品等の購入や修繕を実施しました。</p> <p>また、各学校の要求に優先順位を付け、必要な管理用備品を購入しました。購入時期は、利用の期日に合わせ適切に設定しました。</p>	<p>学校施設の良好な管理運営を図るため、法定点検等の委託を、安全・安心の観点から適切に計画どおり実施できました。</p> <p>また、各学校へ予算を配分することで、有効で計画的な運用を図ることができました。</p> <p>各学校と綿密に協議し、要求に添うよう対応することで、良好な管理運営を図ることができました。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続	<p>Ⅱ-1</p> <p>Ⅱ-5</p>
有効性	B												
効果性	B												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												
学校給食の運営	<p>給食運営に必要な消耗品の購入や小修繕に必要な経費は、予算を年度当初に各学校に配分し、その範囲で必要な消耗品等の購入や修繕を実施しました。</p> <p>また、給食室備品（牛乳冷蔵庫、食器消毒保管庫等）の老朽化に伴う計画的な整備や、調理員への貸与被服を購入しました。</p>	<p>給食備品を計画的に整備し、給食運営に支障がないように対応ができました。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続	<p>Ⅱ-5</p> <p>Ⅱ-6</p> <p>Ⅱ-7</p> <p>Ⅱ-8</p>
有効性	B												
効果性	B												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												
学校保健用備品の購入	<p>各学校の要求に優先順位を付け、必要な保健室備品（鉄製ベッド、全自動洗濯機等）を購入しました。</p>	<p>保健室備品の計画的な整備を図ることができました。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続	<p>I-10</p> <p>Ⅱ-5</p> <p>Ⅱ-6</p> <p>Ⅱ-7</p>
有効性	B												
効果性	B												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												
小中一貫校整備事業費	<p>老朽化する学校施設への対応や児童生徒のより良い学習環境の向上等を目指し、角鹿中学校、敦賀北、赤崎及び咸新小学校を統合した小中一貫校を設置するため、校舎新築工事等を実施しました。</p>	<p>同校設置準備委員会の施設整備部会における対象4校の教職員をはじめ、学識経験者、各PTA、各区の意見を十分反映し、着工後も細部にわたり丁寧に確認を行いながら、学習環境の充実化に向けて有意義な取組みを進めることができました。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>A</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性 (コスト)	A	効率性 (人員)	A	①継続	I-2
有効性	A												
効果性	A												
効率性 (コスト)	A												
効率性 (人員)	A												
空調設備改修事業	<p>熱中症予防のため、各学校の音楽室にエアコンを設置しました。</p>	<p>特別教室における教育環境の向上に繋がりました。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>A</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	A	①継続	<p>Ⅱ-5</p> <p>Ⅱ-6</p>
有効性	A												
効果性	A												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	A												

学校教育課 自己点検・評価報告書（まとめ）

学校教育課では、市内公立幼稚園、小学校、中学校の運営管理をするとともに、「敦賀市教育振興基本計画」及び「敦賀市『知・徳・体』充実プラン」に基づいた家庭・学校・地域が一体となった教育を推進するための事業を展開し、社会に出てからも学校等で学んだことを生かせる人材の育成を図っています。

また、平成30年度から「働き方改善事業」を新設し、教員の長時間労働の緩和、負担の軽減に取り組みました。

地域教育コミュニティ推進事業、地域と進める体験推進事業について

平成29年4月に文部科学省の「地域学校協働活動の推進に向けたガイドライン」において、各教育委員会がそれぞれの地域や学校の特色を生かしつつ、円滑かつ効果的に地域学校協働活動を積極的に推進していくことが明記されました。

敦賀市では、以前から「地域教育コミュニティ推進事業」に継続的に取り組み、「生きる力」の育成を基本とし、特色ある教育、特色ある学校づくりを推進するため、家庭・学校・地域の連携により、相互に情報を提供し、教育力の向上を図っています。

具体的には、オープンスクールに地域のいろいろな職業の方をゲストティーチャーとして招き、携わっている仕事についての内容、やりがい、苦労等を聞いたり、中学校2年生を対象に市内の事業所において実際に就業体験を行ったりして、児童生徒が地域の人々と交流しました。

また、平成28年度から福井県の補助事業である「地域と進める体験推進事業」を開始し、令和元年度は市内全15校で事業を実施しました。この事業は、「体験学習」を主とし、児童生徒が自ら地域の課題等に取り組んでいます。

毎年継続して事業予算を各学校に規模に応じた金額を配分し、それぞれの地域の特性に応じた独自事業を展開することにより、児童生徒が身近な地域のことに興味や愛着を持ちながら学習し、昨今希薄となりつつある地域と家庭との連携強化及び地域の活性化に繋がっていくことを期待しています。

働き方改善推進事業について

教育現場を取り巻く環境の複雑化・多様化により、学校に求められる役割が拡大する中、教員の長時間勤務の改善が喫緊の課題となっています。

この課題に対応するため、平成30年度から「学校運営支援員」及び「部活動指導員」を配置しており、令和元年度は、全小中学校17校に学校運営支援員を配置し、中学校3校に部活動指導員を配置しました。

「学校運営支援員」は、実習・実験等の準備・後始末・補助、学習プリントやたよりの印刷、ホームページの更新等を行い、「部活動指導員」は、単独での部活動指導や引率を行いました。

また、働き方改善の一環として、県主導で整備した「遠隔授業・研修システム」を会議や研修等で活用することにより、教員の出張による負担軽減が図られました。

この事業により、教員の心身の健康が保たれ、教員が本来担うべき授業改善に取り

組む時間や子どもと向き合う時間が十分に確保されることで、よりよい教育ができる環境が整うよう目指しています。

公立幼稚園、小学校、中学校、ハートフル・スクールの管理運営について

消耗品については、各学校が配分された予算の範囲内で購入を行っています。

令和元年度は、各学校等における適正な管理、購入時の数量の精査により、決算額が予算額よりも下回りました。

また、裏紙使用やファイル類の再使用等の環境に配慮した取組みが各学校においても定着してきており、今後も継続して取り組んでいきたいと思えます。

学校ICTの整備（GIGAスクール構想の実現）について

国が示す「GIGAスクール構想の実現」に基づき、敦賀市においても児童生徒1人1台端末及び高速大容量の校内通信ネットワークの整備を進めていきます。

令和元年度は、国の補正予算を活用し校内通信ネットワーク及び端末用電源キャビネットの予算を計上しました。整備は令和2年度に実施するため、予算は次年度に繰り越しましたが、既存ネットワークとの負荷等を考慮しながら効率的なネットワーク構築のための情報収集や現地調査、計画案の作成等を行いました。

今後については、令和2年中にネットワーク及び1人1台端末の整備の完了を目指しています。

学校教育課

1 事務分掌

- (1) 児童・生徒の就学事務に関すること。
- (2) 市立小・中学校の管理に関すること。
- (3) 敦賀市補助金交付事業に関すること。
- (4) 就学援助費・特別支援学級就学奨励費に関すること。
- (5) 学校給食に関すること。
- (6) スクールバスに関すること。
- (7) ハートフル・スクールに関すること。
- (8) 幼稚園に関すること。
- (9) 奨学育英資金に関すること。
- (10) 市立幼稚園、小・中学校における学校教育全般に関すること。
- (11) 市立幼稚園、小・中学校教職員に関すること。
- (12) 学校教育に関わる調査統計に関すること。
- (13) 学校教育に係る事業等に関すること。
- (14) 教職員の働き方改善推進に関すること。
- (15) その他学校教育に関すること。

[敦賀市ハートフル・スクール及び教育研究室]

- (1) 不登校の児童及び生徒の適応指導に関すること。
- (2) 不登校の児童及び生徒のカウンセリングに関すること。
- (3) 訪問指導に関すること。
- (4) 教育相談に関すること。
- (5) 教材開発及び教育機器の活用に関すること。
- (6) 各教科の学習指導に関すること。
- (7) その他教育研究に関すること。

2 自己点検・評価

事業名	取組み状況と成果	成果の分析と評価		今後の方向	分類								
通学区域 審議会運 営	令和元年度開催実績2回 (8月20日、9月2日)	東浦小中学校への小規模特任校制度導入にあたり、指定要件の変更を審議した。	<table border="1"> <tr> <td>有効性</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>A</td> </tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性 (コスト)	A	効率性 (人員)	A	①継続	I-2 I-10 I-12 II-6
有効性	B												
効果性	B												
効率性 (コスト)	A												
効率性 (人員)	A												
「知・徳・ 体」充実事 業	「敦賀市『知・徳・体』充実プラン」や「敦賀市教育振興基本計画」等に基づき、子どもたちの社会性を育み、学力とそれに必要な教職員の資質向上に取り組みました。 1 研修会開催 3回 2 先生のためのワークブック作成 3 家庭学習ガイド作成 (小学校低学年用、高学年用、中学生用) 4 保幼小連携事業バス借上	毎年児童生徒用に作成している「家庭学習ガイド」に加え、新たに教員用の「先生のためのワークブック」を作成したことにより、教員個々のキャリアに応じて一層の力量形成を図ることができました。	<table border="1"> <tr> <td>有効性</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>B</td> </tr> </table>	有効性	A	効果性	B	効率性 (コスト)	A	効率性 (人員)	B	①継続	II-3 II-6
有効性	A												
効果性	B												
効率性 (コスト)	A												
効率性 (人員)	B												
働き方改善 推進事業	教員の多忙化の解消を図るため、実習・実験等の準備・後始末・補助、学習プリントやたよりの印刷、ホームページの更新等を行う学校運営支援員を配置しました。また、部活動面での教員の負担軽減を図るため、単独で部活動の指導や引率ができる部活動指導員を配置しました。 1 学校運営支援員 17校41人 2 部活動指導員 3校3人	支援員の配置により教員の残業時間は、ある程度減少していますが、不登校、いじめ等の対応が難解多様化していることから、今後更に減少し続けていくかは難しいところです。	<table border="1"> <tr> <td>有効性</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>B</td> </tr> </table>	有効性	A	効果性	B	効率性 (コスト)	A	効率性 (人員)	B	①継続	II-3
有効性	A												
効果性	B												
効率性 (コスト)	A												
効率性 (人員)	B												

事業名	取組み状況と成果	成果の分析と評価		今後の方向	分類								
地域教育コミュニティ推進事業	<p>「生きる力」の育成を基本とし、特色ある教育、特色ある学校づくりを推進するため、学校が地域や家庭と連携し、互いの教育力や情報を提供しあい、一体となって教育力の向上を図りました。</p> <p>1 教育コミュニティ推進研究事業 [全小中学校 17 校]</p> <p>オープンスクールを開催し、地域の人材・ボランティアの方々と協力し、地域の特色を活かした活動等をしました。</p> <p>2 中学生の社会体験活動事業 [全中学校 2 年生対象]</p> <p>就業体験活動に係るバス代を補助しました。</p> <p>3 小中接続研究推進事業 [全中学校 5 校]</p> <p>小中学校の英語研究事業を実施しました。</p> <p>4 小中連携合同事業、小小連携合同事業 [角鹿中学校区]</p> <p>中学校区の児童生徒の合同授業を実施しました。</p> <p>5 学力向上推進事業</p> <p>各教科教員の研究事業を実施しました。</p>	<p>各学校の特色ある独自事業を継続的に実施し、地域の人材・ボランティアの方々と触れ合うことで、地域活動に児童生徒が参加するなど地域の活性化にも繋がっています。</p> <p>小中一貫校（角鹿小中学校）の開校に向けた合同授業の開催により、児童生徒の不安の解消及び小中一貫校での学校生活の心積もりを図ることができました。</p>	<table border="1"> <tr> <td>有効性</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>B</td> </tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続	Ⅱ－3
有効性	A												
効果性	A												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												

事業名	取組み状況と成果	成果の分析と評価		今後の方向	分類								
魅力ある学校づくり調査研究事業	<p>不登校対策の推進に向けた教育委員会の果たすべき役割について、栗野中学校区の小中学校をモデル校とし、調査研究を行いました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 小中合同授業の実施 2 教職員対象研修会の実施 3 調査研究会への参加 4 先進地への視察 5 魅力ある学校づくり調査研究事業リーフレット作成 	新規不登校数を抑制するための各校での具体的な取り組みについて研究を行うことができた。栗野中学校区をモデルとした取り組みを活用することができた。	<table border="1"> <tr> <td>有効性</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>B</td> </tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	②完了	Ⅱ-3
有効性	A												
効果性	A												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												
教育関連事業団体等への支援	<p>教育関連事業団体等に事業の教育振興や教育の充実を図る目的で補助金を交付しました。</p> <p>補助金交付団体 3団体</p>	特別支援教育事業等の振興充実と親交を図るための事業費の一部について補助を行うことにより、団体事業の活性化に繋がりました。	<table border="1"> <tr> <td>有効性</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>B</td> </tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	④縮小	Ⅰ-2 Ⅱ-6
有効性	B												
効果性	B												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												
教育振興補助金	<p>生徒の体育・文化行事や通学の為の交通費等に補助を行いました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 二州地区中学校体育連盟負担金 2 中学校体育行事等派遣旅費補助金（交通費、宿泊費補助） 3 生徒通学費補助金 <p>教育委員会規定区域の児童生徒の通学定期乗車券等購入額</p> <p>対象校 小学校 2校 中学校 5校</p> <p>補助率 全額又は2/3</p>	<p>体育・文化行事への参加を奨励することにより、体育文化活動への参加向上を図ることができました。</p> <p>遠方から通学する児童生徒の経済的負担の軽減を図りました。</p>	<table border="1"> <tr> <td>有効性</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>B</td> </tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続	Ⅱ-3 Ⅱ-6
有効性	B												
効果性	B												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												

事業名	取組み状況と成果	成果の分析と評価	今後の方向	分類								
道徳教育総合推進事業	家庭と地域が連携しながら児童生徒の道徳性を高めるため、地域の方等を講師として招き「親子で学ぶ道徳講座」を開催しました。 実施校 松原小学校 杓見小学校	実施校2校で保護者も参加した講座を開催しました。毎年度新たな学校で実施することにより道徳意識の高揚に繋がっていきます。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	A	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続 II-3
有効性	B											
効果性	A											
効率性(コスト)	B											
効率性(人員)	B											
地域と進める体験推進事業	ふるさと福井に誇りや愛着を持ち、新たな活力を生み出す人材を育成するため、児童・生徒が自らの地域の課題等を改善する体験学習を実施しました。 1 実施校 全小中学校15校 2 対象学年 小学5・6年生 中学生	令和元年度は15校が、各学校区の地域まつりへの参加、校外学習でのふるさとPR活動等を子どもたちが体験することにより、地域への愛着を持ち、地域の未来を考えるきっかけとなりました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続 II-3
有効性	A											
効果性	A											
効率性(コスト)	B											
効率性(人員)	B											
ふくいの地場産学校給食推進事業	地場産の特産食材を使用した学校給食を児童生徒に提供するとともに、それらを教材とした食に関する授業を実施することを通して、地域の農林水産業や食文化への理解を深めました。 1 実施日・主な献立(食材)名 6月17日、20日 若狭牛と福井ポークのミンチカツ(若狭牛・福井ポーク)、手作りトマトソース(福井県産野菜等) 11月19日、25日 ふくいサーモンの揚げ浸し(福井サーモン)、野菜のみそ汁(福井県産野菜等) 12月10日、12日 チキンカツ丼(福井県産鶏肉)、とんとんみそ汁(福井県産野菜等) 2 対象校 単独調理式校 小学校8校、中学校2校	地元産の食材を使用した給食を使ったことにより、児童生徒が食に対する興味を持ち、更に生産者の苦労や思いを共有することができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続 II-3 II-8
有効性	A											
効果性	A											
効率性(コスト)	B											
効率性(人員)	B											

事業名	取組み状況と成果	成果の分析と評価	今後の方向	分類								
奨学育英式金貸付金繰出金	奨学育英資金貸付基金利子の積立を行いました。	奨学育英資金貸付基金の充実を図りました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続 II-6
有効性	B											
効果性	B											
効率性(コスト)	B											
効率性(人員)	B											
教育相談支援事業	いじめの早期発見、早期対応、未然防止等の対応を図るために、相談員を配置し、電話相談及び関係機関と連携した支援活動を行いました。 スクールカウンセラー1人(月3回)、教育相談支援員2人配置 相談件数 電話・メール相談 164件 面接相談 373件	昨年度に比べて相談件数が約50件増加、特に面接相談が増加した。 相談案件については、学校、スクールカウンセラー、関係機関等と連絡をとり共有を図りました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続 II-3 II-6
有効性	A											
効果性	A											
効率性(コスト)	B											
効率性(人員)	B											
ハートフル・スクール管理運営	教材の開発や教育相談に必要な消耗品や教材図書等を購入、ハートフル・スクールの維持管理を行いました。	消耗品等の購入に当たり在庫等を精査したことにより、支出を抑えることができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続 II-5
有効性	B											
効果性	B											
効率性(コスト)	B											
効率性(人員)	B											
学校(幼稚園)医の検診	学校保健安全法の規定に基づき、各幼稚園及び学校に医師、歯科医師、薬剤師を委嘱し、集団検診、就学時検診を実施しました。 委嘱人数(延べ人数) 医師 56人 歯科医 27人 薬剤師 17人	検診により病気等を早期に発見し、早期治療につなげ、園児児童生徒の健康管理を行いました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続 I-10 II-6
有効性	B											
効果性	B											
効率性(コスト)	B											
効率性(人員)	B											

事業名	取組み状況と成果	成果の分析と評価	今後の方向	分類								
幼稚園・学校給食の運営	安全で衛生的な給食の運営のため、消耗品（洗剤等）購入や、給食室害虫駆除及び設置備品等の点検を行いました。	年2回（春休み中、夏休み中）の害虫駆除に加え、日頃から衛生面に注意を払っています。食中毒の発生はありませんでした。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続 II-1 II-5 II-8
有効性	B											
効果性	B											
効率性 (コスト)	B											
効率性 (人員)	B											
幼稚園・学校の保健管理	園児児童生徒の健康管理のため、尿検査・心電図検査・結核検査等を行うとともに、保健室備品の計画的な整備を行いました。 日本スポーツ振興センターの実施している保険、全国市長会学校災害賠償保険に加入し、事故等の対応に備えました。	病気等を早期に発見し、早期治療に繋げ、園児児童生徒の健康管理を行いました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続 II-1 II-5 II-6
有効性	B											
効果性	B											
効率性 (コスト)	B											
効率性 (人員)	B											
白木地区児童生徒教育事務委託	白木地区の児童生徒で美浜町の学校に通学している児童生徒の事務委託を実施しました。 事務委託料の算定については、美浜町交付税単位費用額を参考に委託額を算定し、3年に1度、事務委託の算定額の見直しを行っています。	事務委託を実施することにより、地理的に白木地区に近い美浜町の学校で学習することができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続 II-2
有効性	B											
効果性	B											
効率性 (コスト)	B											
効率性 (人員)	B											

事業名	取組み状況と成果	成果の分析と評価		今後の方向	分類								
学校支援員配置事業	<p>授業の補助や学級活動を支援し、生徒の教育環境を充実させるため、各支援員を全小中学校に配置し、学習活動や日常生活において学級担任等と連携しながら支援活動を行いました。</p> <p>1 学校支援員 小学校 14 人、中学校 4 人</p> <p>2 学校図書館司書支援員 小学校 11 人、中学校 4 人</p> <p>3 外国語活動支援員 小学校 9 人</p> <p>4 学級復帰支援員 中学校 1 人</p> <p>5 小中一貫学校支援員 4 人</p>	<p>30年度から4名増員し、学校になじめない児童生徒の不安解消とともに担任教員等の負担を軽減しました。</p> <p>小中一貫学校支援員は、小学校と中学校を兼務し小中学校間の情報共有、一貫した指導の支援を行いました。</p>	<table border="1"> <tr> <td>有効性</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>B</td> </tr> </table>	有効性	A	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続	II-6
有効性	A												
効果性	B												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												
図書等の購入	<p>学校教育に必要な、社会科副読本「きょう土の生活」、「松下むめ文庫」図書、学校図書館用図書、こども新聞、つるが子どもの詩を購入しました。</p>	<p>敦賀の地理歴史の図書を取り入れ、身近な地域についての理解を深めることができました。</p>	<table border="1"> <tr> <td>有効性</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>B</td> </tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続	II-4
有効性	B												
効果性	B												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												
学校間情報ネットワークシステム管理運営	<p>教職員の情報の共有化や事務の効率化、省力化を促進し、児童の指導、教材開発や研究時間が十分図れるように、ネットワークシステムの維持管理を行いました。</p> <p>職員室の校務用パソコンの経年劣化によりパソコンの借上げにより入替を行いました。</p>	<p>毎月1回の定期的な保守管理を行うことにより、システムトラブルもなく円滑な処理を行うことができました。</p>	<table border="1"> <tr> <td>有効性</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>B</td> </tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続	II-4 II-5
有効性	A												
効果性	A												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												

事業名	取組み状況と成果	成果の分析と評価	今後の方向	分類								
教育用コンピュータ管理運営	教育用コンピュータ及びデジタル教科書の利用により、情報機器の利活用と情報教育の更なる推進を図りました。また、教室の大型ディスプレイの経年劣化した故障機器の入替を行いました。	デジタル教科書は、どの教科もよく使用され、児童生徒にとってわかりやすく興味のある授業の一助となっています。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続 II-4 II-5
有効性	A											
効果性	A											
効率性 (コスト)	B											
効率性 (人員)	B											
学校情報通信ネットワーク環境施設整備	国の補正予算を活用し、各小中学校に高速大容量の校内通信ネットワーク及び端末用電源キャビネットの整備を行うための、情報収集や現地調査、ネットワーク構築の計画案等を作成した。	情報収集や各学校の現地調査を行うことで1人1台端末に適応しかつ費用を抑えることができる整備計画案を作成できた。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続 II-5
有効性	B											
効果性	B											
効率性 (コスト)	B											
効率性 (人員)	B											
要保護・準要保護児童生徒就学援助	学校教育法第19条に基づき、経済的理由により就学困難な児童に学用品費等の援助を行いました。 新入学用品費については、令和2年度新1年生の保護者に対し、入学前支給しました。 1 要保護児童生徒数 4人 2 準要保護児童生徒数 492人	保護者の経済的負担の軽減を図りました。 学校徴収金が未納の保護者については、学校口座を経由し支給することで未納対策にも効果的でした。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続 II-6
有効性	B											
効果性	B											
効率性 (コスト)	B											
効率性 (人員)	B											
特別支援学級就学奨励	各小中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に就学奨励を行いました。 認定児童生徒数 127人	保護者の経済的負担の軽減を図りました。 学校徴収金が未納の保護者については、学校口座を経由し支給することで未納対策にも効果的でした。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続 II-6
有効性	B											
効果性	B											
効率性 (コスト)	B											
効率性 (人員)	B											

事業名	取組み状況と成果	成果の分析と評価	今後の方向	分類								
消耗教材等整備	各小中学校に必要な教材消耗品の購入や教材備品等の修繕を行いました。 また、今年度から教師用教科書・指導書教師指導用図書の購入もを行いました。	予算配分の中で、学校運営に支障がないように必要な消耗品の購入や楽器等の修繕、ピアノ調律を行いました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続 II-5
有効性	B											
効果性	B											
効率性(コスト)	B											
効率性(人員)	B											
松下むめ文庫基金積立金	松下むめ文庫基金利子の積立を行いました。	松下むめ文庫の充実を図ることで、児童の本を読む機会を増やすとともに、豊かな心の育成につながりました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続 II-4
有効性	B											
効果性	B											
効率性(コスト)	B											
効率性(人員)	B											
幼稚園管理運営費	公立幼稚園2園の必要な教材消耗品の購入や光熱水費の支払、教材備品等の修繕を行いました。	園児が安全に園生活を送れるよう老朽化した遊具等の修繕を行いました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続 II-4 II-5
有効性	B											
効果性	B											
効率性(コスト)	B											
効率性(人員)	B											

事業名	取組み状況と成果	成果の分析と評価		今後の方向	分類								
施設型給付事業費	<p>子ども・子育て支援新制度へ移行した「私立幼稚園」「認定こども園」に対して、教育・保育に要する経費を給付しました。</p> <p>30年度から予算執行において、1号認定（教育部分）については学校教育課が、2・3号認定（保育部分）については児童家庭課が、それぞれ所管課となりました。</p> <p>1 対象幼稚園 敦賀教会幼稚園</p> <p>2 対象認定こども園 早翠幼稚園、第二早翠幼稚園、さみどり保育園、新和さみどり保育園</p>	各幼稚園等に対し、財政的支援をすることにより、施設整備の充実、延長保育など管理運営の充実を図ることができました。	<table border="1"> <tr> <td>有効性</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>B</td> </tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続	Ⅱ-13
有効性	B												
効果性	B												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												
一時預かり等事業費	<p>敦賀市の子ども・子育て支援事業計画に従って実施される一時預かり事業を実施する私立幼稚園に対し、利用実績に応じた交付金を交付しました。</p> <p>また延長保育事業については、対象となる園児が2号認定（保育部分）であるため、平成30年度から児童家庭課の所管となりました。</p> <p>対象幼稚園 敦賀教会幼稚園</p> <p>実施日数 平日 192日 長期休業日 32日 休日（土日祝）0日</p> <p>利用実績人数 2,433人</p>	財政的支援をすることにより、保護者の緊急や特別な理由による一時的な預かり保育が可能となり、安心して子育てができる環境を整えることができました。	<table border="1"> <tr> <td>有効性</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>B</td> </tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続	Ⅱ-13
有効性	B												
効果性	B												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												

事業名	取組み状況と成果	成果の分析と評価	今後の方向	分類								
幼稚園空調設備改修事業	夏季休暇における園児の熱中症予防のため、松陵幼稚園の遊戯室に空調機器設置のための工事を行った（H30 繰越明許）	遊戯室に空調機器を設置したことで、幼稚園教育の運営の充実につながった。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続 II-3 II-4 II-5 II-6
有効性	B											
効果性	B											
効率性 (コスト)	B											
効率性 (人員)	B											
幼稚園教育振興備品の整備	幼稚園に必要な備品を購入する事で、教育振興備品の計画的な整備を図った。	幼稚園教育の円滑な運営を図る上で必要な備品を購入し、円買い学修や年間行事等	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	II-3 II-4 II-5 II-6
有効性	B											
効果性	B											
効率性 (コスト)	B											
効率性 (人員)	B											
私立幼稚園運営費等補助金	私立幼稚園等が産休等代替職員を任用するにあたり、所要経費に対し補助金を交付し、職員の母体の保護を図りつつ、私立幼稚園等における幼児の処遇確保を図りました。 対象認定こども園 早翠幼稚園	本補助金を交付することにより、幼稚園の教員入替えに伴う費用の負担軽減を行うことができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続 II-3 II-4 II-5 II-6
有効性	B											
効果性	B											
効率性 (コスト)	B											
効率性 (人員)	B											

学校給食センター 自己点検・評価報告書（まとめ）

児童・生徒に必要な栄養摂取量を確保し、安心安全で魅力ある給食を提供するための給食関係業務を実施しました。

学校給食センターの管理運営について

米飯、副食ともに提供を受ける完全給食供給校（小学校5校、中学校2校、幼稚園1園）と米飯供給校（小学校2校、中学校2校）に対し給食の提供を行う学校給食センターの管理運営を行っています。

施設は昭和59年度の供用開始から36年、附帯する設備もほとんどが耐用年数を経過しており、経年劣化による故障が増加しています。また、旧来の設計であるため、文部科学省が定める「学校給食衛生管理基準」等に完全に合致しておらず、食中毒の防止についても細心の注意を払う必要があります。

施設の維持修繕については、予算確保の上、計画的に実施しました。食中毒については、水質検査や設備・食品の衛生検査及び薬品による消毒作業等を行い、未然防止に努めました。

給食材料の購入について

児童・生徒に必要な栄養摂取量を確保し、安心安全で魅力ある給食を提供するための食材料の購入を行っています。食材料の購入に当たっては、県農林水産部、学校給食会、卸売業者及び生産者等と連携し、可能な限り地場産食材を取り入れています。

今年度は、完全給食供給校に512, 387食、米飯供給校に163, 647食を提供しました。地場産食材の使用率については、県内産22.0%、市内産7.8%でした。

給食配送業務について

平成15年度から業務委託を開始している給食及び食器類の配送及び回収業務です。

委託業者に配送車両の日常・定期点検を徹底させ、配送車両の故障や交通事故なく、配送できました。

給食調理業務について

平成16年度から業務委託を開始している給食の調理及び食器類の洗浄業務です。

委託業者に調理器具等の日常点検や食中毒の防止等を徹底させ、安心安全な給食を提供できました。

ふくいので場産学校給食推進事業（平成30年度～令和2年度）について

福井県の特産食材などの地場産食材を使用した学校給食を児童・生徒に提供するとともに、それらを教材とした食に関する授業を実施することを通して、地域の農林水産業や食文化への理解を深め、児童・生徒にふるさと福井を誇りに思う心を育むこと

を目的にした県の補助事業です。

今年度は、6月、11月、12月にそれぞれ一回ずつ福井県の特産食材を使用した給食を提供しました。

○給食センター

事業名	取組み状況と成果	成果の分析と評価	今後の方向	分類								
給食センター管理運営(施設修繕)	<p>施設は昭和59年度の供用開始から36年、附帯する設備もほとんどが耐用年数を経過しており、経年劣化による故障が増加しています。</p> <p>大規模な修繕については、予算確保の上、全13件を給食提供に支障が出ない夏季休業中に計画的に実施しました。</p> <p>突発的な修繕については、全54件を実施しました。故障の未然防止のために日常点検を行い、簡易なものは極力、職員で修理することで、業者への発注を最小限に抑えることに努めています。</p>	<p>給食の提供に大きな影響なく施設の管理運営ができました。</p> <table border="1"> <tr><td>実現度</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果度</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率度(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率度(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	実現度	B	効果度	B	効率度(コスト)	B	効率度(人員)	B	① 継続	II - 18
実現度	B											
効果度	B											
効率度(コスト)	B											
効率度(人員)	B											
給食センター管理運営(その他)	<p>水質検査や設備・食品の衛生検査及び薬品による消毒作業等により、食中毒を未然に防ぎ、調理機器等の維持管理により、給食の調理・配送業務を円滑に行うことができました。</p> <p>燃料・光熱水費については、調理業者に燃料等の使用量を周知し、節約を求めるとともに、季節によってボイラーの稼働時間を調整し、燃料の使用を抑えました。</p>	<p>食中毒や機器の故障による大きな問題なく管理運営ができました。</p> <table border="1"> <tr><td>実現度</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果度</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率度(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率度(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	実現度	B	効果度	B	効率度(コスト)	B	効率度(人員)	B	① 継続	II - 18
実現度	B											
効果度	B											
効率度(コスト)	B											
効率度(人員)	B											
学校給食食材の購入	<p>食材料の納入の際には、栄養教諭立会いの下で検収を行い、数量や品質の確認を行うとともに、業者に対し産地、加工地の確認及び成分分析等を徹底し、品質の確保や納入の遅延防止に努めました。</p>	<p>大きなトラブルなく、食材料の購入を行うことができました。</p> <p>また、地場産食材を積極的に取り入れました。</p> <table border="1"> <tr><td>実現度</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果度</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率度(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率度(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	実現度	B	効果度	B	効率度(コスト)	B	効率度(人員)	B	① 継続	II - 8
実現度	B											
効果度	B											
効率度(コスト)	B											
効率度(人員)	B											
給食配送業務	<p>配送業者と連携し、給食開始時間の変更等による配送時間の変更に対応した結果、給食の遅配はありませんでした。</p> <p>また、配送業者に対し、配送車両の日常・定期点検及び安全衛生管理の指導の徹底を行いました。</p>	<p>配送車両の故障や交通事故なく、給食を配送できました。</p> <table border="1"> <tr><td>実現度</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果度</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率度(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率度(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	実現度	B	効果度	B	効率度(コスト)	B	効率度(人員)	B	① 継続	II - 8
実現度	B											
効果度	B											
効率度(コスト)	B											
効率度(人員)	B											
給食調理業務	<p>調理業者に調理器具等の日常点検を徹底させるとともに、衛生管理研修会の実施等により、調理器具の故障や食中毒を未然に防ぎ、安心安全な給食を提供できました。</p>	<p>調理器具の故障や食中毒等を未然に防ぎ、安心安全な給食を提供できました。</p> <table border="1"> <tr><td>実現度</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果度</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率度(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率度(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	実現度	B	効果度	B	効率度(コスト)	B	効率度(人員)	B	① 継続	II - 8
実現度	B											
効果度	B											
効率度(コスト)	B											
効率度(人員)	B											
ふくい地場産学校給食推進事業	<p>福井県の特産食材などの地場産食材を使用した学校給食を児童・生徒に提供するとともに、それらを教材とした食に関する授業を実施することを通して、地域の農林水産業や食文化への理解を深め、児童・生徒にふるさと福井を誇りに思う心を育むことを目的にした県の補助事業を実施しました。</p> <p>(参考)</p> <p>実施時期・献立名</p> <p>6月 若狭牛とふくいポークのメンチカツ 外</p> <p>11月 ふくいサーモンの唐揚げ 外</p> <p>12月 チキンソースカツ丼 外</p>	<p>県の補助事業の目的を達成することができました。</p> <table border="1"> <tr><td>実現度</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果度</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率度(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率度(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	実現度	B	効果度	B	効率度(コスト)	B	効率度(人員)	B	① 継続	II - 8
実現度	B											
効果度	B											
効率度(コスト)	B											
効率度(人員)	B											

生涯学習課 自己点検・評価報告書 (まとめ)

生涯学習課関係事業は各種講座・学級の開設や自主学習教室の育成など、生涯学習の推進と、成人式、地区事業の運営協力など人づくり、地域づくりの推進を目指して事業を行いました。

① 数値目標の達成状況と分析

【主催事業利用者実績 (年度末) ・ ・ 講座 ・ 教室 ・ 学級 ・ 行事参加数】

※ 10ヶ所 (9公民館及び生涯学習センター)

H29年度	57,149人
H30年度	65,191人
R元年度	63,798人

【増減理由】

- ・ 主催事業利用者は昨年比1,393人の減少となっております。年度途中も含め生涯学習センター、北、中郷公民館で新規教室を開催したこと。また、放課後子ども教室では児童クラブと連携した教室を開催により参加者の増加につながったと考えられます。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響のため3月の教室等が一部中止となり、利用者が大幅に減少したため、全体的には昨年度よりも減少しております。
- ・ 今年度も社会教育施設として、住民ニーズを把握し、魅力ある教室が開催できるよう随時見直していくことが必要と考え、今後も社会教育の重点施策「社会教育施設の円滑な運営」にある生涯学習の立場にたって、地域住民の多種多様な学習要求に応えると共に、自主的で活発な学習活動が展開されるよう、学習機会の拡充と内容の充実に努めていきます。

【生涯学習施設利用者数 (年度末)】

H29年度	126,345人
H30年度	134,652人
R元年度	138,331人

【増減理由】

- ・ 施設の利用者数は、昨年度比3,679人の増加となっております。4月の統一地方選挙及び7月の参議院議員選挙による利用や、子どもミュージカルや子どものダンスなどの練習利用による増加と考えられます。しかしながら、3月には新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が大幅に減少しております。
- ・ 生涯学習課及び公民館は、社会教育の方向や公民館運営方針に基づいて、地域の実情に応じた利用に努めています。

【大会、研修会参加数（年度末）】

H 2 9 年度	2, 1 9 3 人
H 3 0 年度	3, 1 7 4 人
R 元年度	5, 0 5 8 人

【増減理由】

- ・公民館が主催し開催した各種大会等（文化祭、演芸のつどい、講演会等）に参加した人数で、昨年度比1, 884人の増加となっております。
- ・継続的に行われている高齢者を対象とした寿学級などにおいて、演奏会などの催し物の内容により、参加者数に変動が見られる傾向があります。
- ・今後、地域社会が必要とするリーダーの育成に公民館が各種団体と連携し、バックアップしていくことが求められると分析します。

② 生涯学習推進事業について

生涯学習センターでは受講希望者の多い英会話、韓国語、中国語、ペン字講座を開催しました。また、流行を取り入れた講座の開催を試み、新たな利用者の掘り起こしに努めました。

一方、公民館では、高齢者学級、女性学級などを開催し、健康、交通安全、子育て、時事問題など地域住民の身近にある様々なテーマで学習の場を提供し住民の自己研鑽に役立ちました。

また、生涯学習課と公民館において、受講生が自主的に運営している各種自主学習教室につきましては、運営の助言をし、発表の場である文化祭開催の協力することで自主学習活動の育成を図り、住民の生きがいがづくりに努めました。文化祭には、699名が来場し、昨年度の557名より増加したことは、学習生の励みになるものと考えられるとともに、文化祭を機に、自主学習を始めるきっかけとなるよう、今後も継続して続けていきたいと考えております。自主学習教室は、108教室と今年度も高齢化等によりわずかではありますが減少しており、教室の参加者が10名に達しない教室も存在するため、文化祭でのPRや、ホームページでも掲載し、参加者の増加に努める必要があります。新規の自主学習教室の増加も必要と考えますが、今ある自主学習教室の充実の支援について検討することが必要と考えております。

③ 心ゆたかな人づくり事業について

令和2年1月12日には、成人式を例年通り開催し、新成人の企画運営委員による進行で挙行了しました。平成28年度には、一部新成人において、式典の進行の妨げとなるような行動があったため、式典の運営体制の見直し及び警察との打ち合わせを密に行い、妨害行為のない式典を行うことができました。今後も、新成人の自主性や協働意識を高められるよう、企画運営委員と調整を行っていくとともに、2022年の民法改正に伴い、18歳成人となるため、今後の成人式について他市町の状況も踏まえ、検討を進めていきたいと考えております。

子育て講座として、保護者に対して、家庭教育の重要性や具体的な方法について学習する機会を就学児健康診断時に市内の11（市内13小学校の内3校

合同開催)の小学校において実施しました。健康診断時であることで参加率も高いため、今後も継続して取り組んでいきます。また、今年度も社会教育委員の会の提言書に基づき、中学生の入学説明会時に、保護者に、スマホに関する講座を5中学校で開催し、フィルタリングについてなど、携帯電話会社の方を講師に招いて行いました。

④ 地域づくり事業について

生涯学習課ではふるさとづくり運動、小さな親切運動、敦賀市民憲章推進運動などを推し進め、また、人権研修会を開催するなどぬくもりのある地域づくりを目指しました。

なお、人権啓発に関連しては、生涯学習センターの主催講座の講師に協力依頼し、主催講座の時間を利用して人権教育研修会を開催したほか、人権週間に合わせて毎年開催している敦賀市人権教育指導者研修会では、市民一人ひとりが人権問題についての認識を深め、人権尊重の社会が確立するよう努めました。

また、公民館では、体育大会、クリーン作戦などを住民と力を合わせて開催し、地区の豊かなコミュニティづくりを目指しました。今後も地区の特性を活かした事業展開を目指していきたいと考えております。

地域コミュニティ推進事業として、住民主導で地域活性化、世代間交流、防災等の事業を通じて、地区内の地域振興に取り組む組織に交付金を交付し、組織を支援しました。本事業の取り組み4年目となる栗野コミュニティ運営協議会から今年度も申請があり、地域の人々が公民館に集う事業を展開し、参加者の増加が成果となって現われたと考えております。今後も、人々が集い、つながりが持てる事業が展開されるよう支援してまいります。また、他地区においても、地区の実情等を把握しながら、住民による自主的なコミュニティ活動を支援できるようにしてまいりたいと考えております。

⑤ まとめ

自主学习教室については、社会全体の高齢化に伴い受講生も高齢化の傾向にありますが、生涯学習センターと各公民館で教室を開催し、受講しやすい環境を整備することで年々受講者数が増え、平成29年度からは4万人を超えるようになりました。

生涯学習課及び公民館の主催講座では、敦賀市の特色ある生涯学習に繋がるような語学講座(韓国語、中国語、英語)の受講者を増やすことや、市民のニーズにあった講座を開催するために、流行を取り入れたり、これまで生涯学習にあまり興味を持たない方々に対し、生涯学習のきっかけづくりができるよう新しい講座を開催することに取り組みました。今後も、これまで行ってきた通年の講座だけでなく、受講期間の短い短期講座を開催することで、より気軽に講座に参加できる体制をつくることも必要と考えます。また、生涯学習センターと公民館が連携し、センターでまず開催した教室を、各公民館で広げていけるよう協力して、生涯学習の推進に努めていきます。

敦賀市社会教育委員の活動では、平成30年3月に教育長に提出した家庭教育に関する提言書に基づき、中学入学時説明会時に保護者に対してスマホ・ケータイ安全教室を継続するとともに、令和2・3年度の研究テーマを早期に検討し、今後の研究テーマをもとに新たな取り組みを研究してまいります。

放課後地域子ども教室は全公民館で実施しました。昨年に引き続き、松原公民館において、児童クラブと連携し、平日に教室を開催、また、今年度は、栗野公民館でも児童クラブと連携し、平日に教室を開催しました。今後は、他公民館でも児童クラブとの連携を考え、また、教室内容の見直しを随時行い、子どもたちに安全で安心な居場所、楽しい時間を提供し、気軽に公民館に訪れる環境づくりに努めていきます。

以上のように、これまでの内容を継続してだけでなく、住民に興味を持ってもらえるような、新しい発想を持って、生涯学習推進に努めていきたいと考えております。

生涯学習課

【生涯学習課の事務分掌】

- (1) 社会教育に必要な援助に関する事。
- (2) 社会教育委員の委嘱に関する事。
- (3) 社会教育施設の整備に関する事。
- (4) 社会教育と学校教育の連携に関する事。
- (5) 家庭教育に関する学習の機会の提供及び奨励に関する事。
- (6) PTA、社会教育団体等諸機関の指導育成に関する事。
- (7) 青少年の体験活動に関する事。
- (8) 社会教育に関する調査統計に関する事。
- (9) 生涯学習センターに関する事。
- (10) 図書館に関する事。
- (11) プラザ萬象に関する事。
- (12) 少年愛護センターに関する事。
- (13) 少年自然の家に関する事。
- (14) 公民館に関する事。
- (15) その他社会教育に関する事。

事業内容	取組み状況と成果	成果の分析と評価	今後の方向	分類								
社会教育委員の活動	社会教育委員会議を5回開催し、社会教育事業について話し合いを持ちました。 教育長に対して提出した家庭教育に関して提言書に基づき、家庭教育のポイントをまとめた「家庭教育指針」を作成するとともに、家庭教育指針をわかりやすくし、家庭教育相談の情報も取り入れた「家庭教育ハンドブック7つのすすめ」を作成し、保護者に配付するとともに、HP上でも紹介した。	家庭教育の支援に向けて社会教育委員が主体となって活動し、家庭教育指針の策定、それをわかりやすくまとめたリーフレットを作成することができました。	①継続	Ⅱ - 9								
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>有効性</td><td style="text-align: center;">A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td style="text-align: center;">A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td style="text-align: center;">B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td style="text-align: center;">B</td></tr> </table>			有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B
有効性	A											
効果性	A											
効率性(コスト)	B											
効率性(人員)	B											
社会教育指導員の活動	生涯学習課に1名の指導員を週3日勤務させ、社会教育に関する指導や団体の育成に取り組みました。 令和元年8月～10月にかけて、生涯学習センターの主催講座7教室及び公民館を利用する8団体計261名に対しDVD視聴をしました。 令和元年9月13日に生涯学習センター関連職員13名に対し、体験型の人権ワークショップを中心とした研修を行いました。 令和元年11月20日に人権教育指導者研究会を一般市民、教員、市職員、企業等を対象に開催し、98名が参加しました。	人権教育などの指導を行い、社会教育活動の推進に寄与しました。	①継続	Ⅱ - 9								
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>有効性</td><td style="text-align: center;">A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td style="text-align: center;">A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td style="text-align: center;">B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td style="text-align: center;">B</td></tr> </table>			有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B
有効性	A											
効果性	A											
効率性(コスト)	B											
効率性(人員)	B											
成人式の開催	令和元年度に20歳となる新成人を対象に成人式を開催しました。 対象者664名のうち595名参加のもと、新成人による企画運営委員により、式典の受付や司会進行、アトラクションを行い、一部新成人による進行の妨げもなく、無事執り行うことができました。	新成人としての自覚を持つこと、自主性を高めること、市との協働という意識を持っていただくことに役立てることができました。	① 継続	Ⅱ - 9								
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>有効性</td><td style="text-align: center;">A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td style="text-align: center;">A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td style="text-align: center;">B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td style="text-align: center;">B</td></tr> </table>			有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B
有効性	A											
効果性	A											
効率性(コスト)	B											
効率性(人員)	B											

ふるさと創り運動の推進	ふるさと創り運動の団体(あすの福井県を創る協会)へ負担金を交付し、まちづくりや地域活性化の推進を図りました。 あすの福井県を創る協会の活動・県民のつどい開催、ラジオ体操運動の推進等	地域での地道な活動を継続することで、まちづくりの活性化が図られています。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	① 継続	II - 9
有効性	A												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
小さな親切運動の推進	「小さな親切運動」敦賀支部の事務を取り扱うと共に補助金を交付し、まちづくりや人づくりを通して市民相互の連帯意識の高揚、地域の活性化を図りました。 新幹線開業に向けて県内外の人を迎える気運を高める創意あふれる取り組みに対する新規の補助事業を実施しました。 「小さな親切運動」敦賀支部の活動…あったか運動、あいさつ運動の推進、クリーン作戦実施・親子フェスティバルへの参加、実行章の推薦及び表彰等	会員の積極的な活動の展開により、支部活動が市民へ浸透し地域活性化の目的を果たしています。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	① 継続	II - 9
有効性	A												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
連合婦人会の支援	敦賀市連合婦人会へ補助金を交付し、婦人としての教養を高めるとともに、青少年の育成をはじめとした奉仕活動を通して地域の活性化を図りました。 敦賀市連合婦人会の活動…交通安全街頭指導の実施、食べきり運動研修会として、2保育園で紙芝居実施等	会員の研修や仲間作りの推進により、生きがいのある地域社会の形成に努めています。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	① 継続	II - 9
有効性	A												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
P T A 連合会の支援	敦賀市 P T A 連合会へ補助金を交付し、P T A の活性化や児童・生徒の健全育成のための諸活動を支援しました。 敦賀市 P T A 連合会の活動…敦賀市 P T A 連合会座談会しゃべり場の開催、市 P 連だよりの発行等	児童・生徒の健全育成に関し、学校・地域・家庭の連携の強化に努めています。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	① 継続	II - 9
有効性	A												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
敦賀市民憲章推進会議事業推進	敦賀市民憲章推進会議の事業を推進するとともに補助金を交付し、地域づくりを推進し敦賀市民としての郷土愛を高め、誇りあるふるさとづくりの推進に努めました。 市民憲章・市歌普及のためにクリアファイルを作成し、配布しました。 敦賀市民憲章推進協議会の活動…広報紙コンクールの開催、クリーンアップ福井大作戦! の開催等	敦賀市民憲章の普及啓発の継続と、市民の郷土愛の高揚に努めることができ、心豊かな人づくりに貢献することができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	① 継続	II - 9
有効性	A												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
青少年育成団体の支援	敦賀海洋少年団、敦賀スカウト連絡協議会及びあわの子育てネットワークへ補助金を交付し、団体の育成と事業活性化を図りました。 敦賀海洋少年団の活動…ロシア人墓地清掃奉仕、カッターレースの開催等 敦賀スカウト連絡協議会の活動…子どもの国祭り出店、親子フェスティバル参加等 あわの子育てネットワークの活動…子育て支援、悩み事相談の実施等	青少年育成団体の育成、事業活性化に役立ち、青少年の健全育成に寄与することができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	① 継続	II - 9
有効性	A												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												

その他の活動	<p>人権教育指導者研修会を開催するとともに、社会教育指導員研修会、人権教育研修会等に参加しました。</p> <p>市内全小学校（内3校合同開催）で、新入学児の健康診断の際、保護者に子育て講座を開講しました。また、中学校入学説明会時に携帯電話会社の方を講師に招き、スマホに関する講座を保護者に対して行いました（5中学校）。</p> <p>公民館職員研修（5回）を開催しました。</p>	<p>人権知識の向上が図られ、人づくりに役立ちました。</p> <p>新入学児童保護者の子育て基礎知識の習得に役立ちました。公民館職員の資質向上に役立ちました。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続	II - 9																														
有効性	A																																										
効果性	A																																										
効率性 (コスト)	B																																										
効率性 (人員)	B																																										
生涯学習課の各種講座等の開催及び自主学習教室の育成	<table border="0"> <tr><td>英会話講座</td><td>60回開催</td></tr> <tr><td>中国語講座</td><td>30回開催</td></tr> <tr><td>韓国語講座</td><td>30回開催</td></tr> <tr><td>ペン字・筆ペン講座</td><td>60回開催</td></tr> <tr><td>チョークアート講座</td><td>4回開催</td></tr> <tr><td>パソコン講座</td><td>4回開催</td></tr> <tr><td>クラフトバック講座</td><td>3回開催</td></tr> <tr><td>ウクレレ講座</td><td>8回開催</td></tr> <tr><td colspan="2" style="text-align: right;">合計 199回</td></tr> </table> <p>市民かるた大会開催 子どもかるた大会開催 市長杯囲碁将棋大会開催 王座戦囲碁将棋大会後援 生涯学習センター文化祭(自主学習教室による)開催</p> <p>各種講座及び各種自主学習教室(生涯学習センター分)</p> <table border="0"> <tr><td>令和元年度</td><td>6,305名</td></tr> <tr><td></td><td>(5,921名)</td></tr> </table> <p>(内訳)</p> <table border="0"> <tr><td>各種講座</td><td>3,261名</td></tr> <tr><td></td><td>(3,036名)</td></tr> <tr><td>各種自主学習講座</td><td>3,044名</td></tr> <tr><td></td><td>(2,885名)</td></tr> </table> <p>()内はH30年度実績</p> <p>ニーズの高い講座の実施に努めたことにより、幅広い年齢層の方に受講いただくことができました。</p>	英会話講座	60回開催	中国語講座	30回開催	韓国語講座	30回開催	ペン字・筆ペン講座	60回開催	チョークアート講座	4回開催	パソコン講座	4回開催	クラフトバック講座	3回開催	ウクレレ講座	8回開催	合計 199回		令和元年度	6,305名		(5,921名)	各種講座	3,261名		(3,036名)	各種自主学習講座	3,044名		(2,885名)	<p>生涯学習センター主催で各講座を開催しました。語学講座においては、各言語の基礎知識と国際性豊かな教養を身につけました。</p> <p>ペン字・筆ペン講座等においては、個人の自己研鑽のための内容、あるいは地域社会や職場でも役立つ内容の講座を学習し、生活をより楽しく、より豊かなものにするに資することができました。</p> <p>また、趣味の講座を短期に開催し、生涯学習のきっかけづくりを提供することができました。</p> <p>囲碁将棋大会、かるた大会においては、市民が楽しく集い、有意義な生涯学習の場とすることができました。文化祭においては、文化的素養の向上と自己研鑽に励んでいる生涯学習課、各自学習教室の皆様の発表の場として、日頃の学習の成果を広く市民の皆様に発表し、活力に満ちた生涯学習のまちづくり推進に役立ちました。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続	II - 9
英会話講座	60回開催																																										
中国語講座	30回開催																																										
韓国語講座	30回開催																																										
ペン字・筆ペン講座	60回開催																																										
チョークアート講座	4回開催																																										
パソコン講座	4回開催																																										
クラフトバック講座	3回開催																																										
ウクレレ講座	8回開催																																										
合計 199回																																											
令和元年度	6,305名																																										
	(5,921名)																																										
各種講座	3,261名																																										
	(3,036名)																																										
各種自主学習講座	3,044名																																										
	(2,885名)																																										
有効性	A																																										
効果性	A																																										
効率性 (コスト)	B																																										
効率性 (人員)	B																																										
生涯学習センターの管理運営	<p>生涯学習センターの管理運営に必要な消耗品及び通信電話料を支出しました。</p>	<p>支出の削減を念頭に、適切に管理運営を行いました。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続	II - 9																														
有効性	B																																										
効果性	B																																										
効率性 (コスト)	B																																										
効率性 (人員)	B																																										
公民館運営審議会委員の活動	<p>各公民館の年間の事業実施計画と事業報告について審議いただいた結果、公民館事業に関する貴重な意見をいただきました。</p> <p>年間2回開催（4公民館） 年間3回開催（5公民館）</p>	<p>公民館活動が地域住民と行政との緊密な連携のもとに進められています。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続	II - 9																														
有効性	A																																										
効果性	B																																										
効率性 (コスト)	B																																										
効率性 (人員)	B																																										

<p>公民館の管理運営</p>	<p>公民館が機能を充分発揮できるよう、消防設備保守点検、保安警備、自家用電気工作物保安業務、エレベーター保守点検、冷暖房設備切替保守点検、清掃業務等保守管理業務等を業者に委託することで円滑な設備等の維持が図られました。また、必要な修繕を行いました。</p>	<p>各種保守点検等を業者へ委託することにより、施設の維持管理が適切に行われています。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	<p>①継続</p>	<p>II - 9</p>
有効性	A												
効果性	B												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												
<p>放課後地域子ども教室推進事業</p>	<p>市内小学校児童を対象に、地区の指導者の特技を活かした教室を、放課後や長期休業中に公民館で開催しました。また、ふれあい交流や、軽スポーツなどの教室を開催しました。</p> <p>東浦公民館 54名 北公民館 714名 南公民館 317名 西公民館 70名 東郷公民館 436名 中郷公民館 347名 愛発公民館 86名 粟野公民館 263名 松原公民館 1,217名</p> <p>合計 3,504名</p>	<p>各公民館を活動拠点として、放課後や休日の子どもの安全な居場所づくりができました。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	<p>① 継続</p>	<p>II - 9</p>
有効性	A												
効果性	A												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												
<p>各公民館生涯学習推進事業の実施</p>	<p>高齢者学級、女性学級等を開催するとともに、各種自主学習教室の運営を支援し、地域住民の生涯学習を推進しました。また、地域における防災教育、スポーツ、環境美化啓発活動等の事業を地域住民とともに開催し、地域づくりを推進しました。</p> <p>東浦公民館 459名 北公民館 6,480名 南公民館 8,291名 西公民館 8,199名 東郷公民館 3,405名 中郷公民館 2,581名 愛発公民館 400名 粟野公民館 11,006名 松原公民館 12,805名</p> <p>合計 53,626名</p>	<p>全館民間館長の運営のもと、地域住民と力を合わせ、身近な学習の場及び地域づくりの場を提供することができました。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	<p>①継続</p>	<p>II - 9</p>
有効性	A												
効果性	A												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												

<p>地域コミュニティモデル推進の実施</p>	<p>住民主導で、地域活性化、世代間交流、防災等の事業を通して、地域振興を図るため、事業に取り組む粟野コミュニティ運営協議会に対し、交付金を交付しました。また、他地区にも広められるよう、コミュニティ事業について、地区の状況をお聞きしました。</p> <p>粟野コミュニティ運営協議会事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報誌発行 ・ちょっと素敵なコンサート開催 ・芋粥歴史セミナー開催 ・クリーン作戦実施 ・スポーツパーティ実施（グラウンドゴルフ） ・ふる里まつり開催 ・河川等安全確認パトロール実施 ・あいさつ運動キャンペーン開催 ・AWANO 秋まつり開催 ・健康・脳活「麻雀大会」開催 ・高齢者いきいき元気塾開催 	<p>地域コミュニティモデル地区に対し、交付金を交付し、住民の自主的な地域コミュニティ活動を支援しました。</p>	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>有効性</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>B</td> </tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	<p>① 継続</p>	<p>II-9</p>
有効性	A												
効果性	A												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												

図書館 自己点検・評価報告書（まとめ）

図書館業務

図書館の開館時間は、図書館運営規則により平日は午前10時から午後7時まで、土・日曜日は午前10時から午後6時までとなっておりますが、6月から9月までの期間を、教育委員会の承認を得て、午前9時30分からの開館時間といたしました。また、第6次敦賀市総合計画後期基本計画及び教育振興基本計画により「生涯学習の知の拠点」の機能に加え、「まちづくりの拠点」としての機能を併せ持つ施設として、市民が利用しやすい環境づくりを進め、市民生活に役立つ情報の提供に努めてまいります。

さらに、敦賀市子ども読書活動推進計画に基づき、子どもから大人までが幅広く読書に親しみ、次代を担う子どもたちの健全な育成を目標とし、家庭や地域、学校などと協力・連携して、読書推進活動を総合的かつ効果的に進めてまいります。

図書館利用状況（栗野公民館図書コーナーを含む）

	開館日数	のべ利用者数	1日平均利用者数	のべ貸出冊数	1日平均貸出冊数	登録者数
平成29年度	279	200,966	720	286,673	1,028	772
平成30年度	279	202,648	726	289,832	1,039	839
令和元年度	279	203,490	729	271,516	973	782

図書予約状況

(件)

	予約総数	ネット件数	窓口件数
平成29年度	15,313	8,969	6,344
平成30年度	15,182	9,217	5,965
令和元年度	14,387	8,585	5,802

昨年度と比較すると、開館日数は同じですが、1日平均の貸出冊数は減少しました。本の予約件数も同じように減っています。ただし、1日の平均利用者数については、それほど変化は見られませんでした。

図書館の管理運営

図書館システムの堅実な運用を確保し、館内各設備機器等の確実な動作と安全のため

の保守管理・施設等修繕を実施し、円滑な運営を行いました。
 今後も、図書館業務の効率化・迅速化を図り、利用者の利便性向上に努めます。

図書の購入

図書の購入については、見計らい本並びにブックキャラバンの現物選書を実施し、また新聞書評等を参考にして選書いたしました。

今後も特色ある図書館を目指し、「生涯学習の知の拠点」として、蔵書の充実に努めます。

図書館蔵書受入状況 (冊)

	前年度 蔵書冊数	購入冊数	寄贈冊数	その他	除籍冊数	3月末 蔵書冊数
平成29年度	262,087	5,530	1,004	1	1,777	266,845 (4,758増)
平成30年度	266,845	6,287	1,673	24	1,491	273,338 (6,493増)
令和元年度	273,338	6,422	1,162	19	6,297	274,644 (1,306増)

敦賀市立図書館にしかない郷土の新聞等を、市民の方に見ていただけるよう、平成30年度に実施した敦賀新聞等のデジタル化に引き続き、令和元年度は、昭和20～30年代の北陸日報等、1,278面のデジタル化を実施しました。

ブックスタート事業

ブックスタート事業は、生後7ヵ月の乳児とその保護者を対象に、親子で本にふれあうことの大切さをアドバイスすることで、心ふれあうひとときをもつ契機とすることができました。

今後も、より多くの親子が絵本を開く時間の楽しさを、一層体験できるよう努めていきます。

ブックスタート参加状況 (人)

	対象者数	図書館	子育て総合 支援センター	栗野子育て 支援センター	合計 参加者	参加率
平成29年度	568	179	117	150	446	79%
平成30年度	525	184	114	131	429	82%
令和元年度	424	108	75	122	305	72%

ブックスタート事業の参加率向上のため、市内8カ所の小児科・産婦人科施設に啓発ポスターを配布し、事業の周知に努めるとともに、ブックスタート未参加の方には、再度案内通知を送付しました。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月開催の事業を中止したことで参加率は低くなっています。

図書館有効活用推進事業

子どもたちにもっと本を読んでもらうきっかけづくりといたしたく、敦賀市出身の絵本作家、刀根里衣さんの絵を表紙とした読書手帳を作成し、市内の小中学校に配布しました。読書手帳とは、今までに自分が読んだ本の感動や発見を記録として残しておくための手帳で、この読書手帳を活用することによって、より多くの市民が読書に親しんでいただけるよう努めました。

また、雑誌スポンサー制度を導入しました。この制度は、図書館で購入する雑誌のスポンサーを企業・団体から募集し、最新号の雑誌のカバーに広告を載せることによって広告料（1年間の雑誌の購入代金）を納入していただき、図書館の雑誌の充実を図ることを目的としています。令和元年度は、8社から16誌分のご協力をいただきました。

図書利用推進事業

図書利用推進事業は、学校や、幼稚園、保育園、児童クラブ等に図書を配架し、図書の利用推進を図りました。配架先は42施設で実施しており、今後も事業推進を図ってまいります。

図書利用推進貸出状況

	貸出施設数	貸出冊数
平成29年度	39施設	20,950冊
平成30年度	44施設	22,960冊
令和元年度	42施設	12,139冊

令和元年度は、11月以降、事業の継続が困難となり一時休止としたため、貸出冊数は減っています。

視聴覚ライブラリー

視聴覚資料の充実と環境整備等を実施して利用者の拡大を図りました。

視聴覚コーナー利用統計

(人)

	DVD	インターネット	音楽CD 他	合計	大人	子ども	1日平均
平成29年度	2,584	3,111	64	5,759	2,640	3,119	21
平成30年度	2,716	4,181	88	6,985	3,283	3,702	25
令和元年度	1,530	4,259	47	5,836	2,719	3,117	21

インターネット利用者数にそれほど変化はありませんが、DVD視聴者数は減少しています。令和元年度のDVD・CD購入枚数は36枚です。

○図書館

事業内容	取組み状況と成果	成果の分析と評価	今後の方向	分類									
図書館業務	図書館業務は、通常10時開館のところ、6月から9月までの期間に限り、開館時間を30分早めて、9時30分の開館とし、利用者の利便性を図りました。また、パート職員3名を採用し、利用者のサービスの向上に努めました。	図書館業務、3階視聴覚コーナー業務について、親切・丁寧・迅速・公平なサービスを実施することができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>A</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	A	①継続	II-9
有効性	A												
効果性	A												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	A												
図書館の管理運営	館内各設備機器（消防設備・エレベーター設備・電気工作物の保安設備・冷暖房設備等）の確実な動作と安全のため、保守管理業務を委託しました。	館内各設備機器のシステム等の確実な動作と安全のため、保守管理を行い、また施設の維持に必要な修繕を実施いたしました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	II-1
有効性	A												
効果性	A												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
図書の購入	市民の要望に応えながら蔵書を整備し、見計らい本やブックキャラバン、新聞書評等を参考に選書いたしました。年間購入冊数は6,422冊、予約件数は14,387件となりました。	市民の学習・情報発信の拠点として蔵書の充実を図り、利用者の要望に迅速に応えることができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	II-9
有効性	A												
効果性	A												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
ブックスタート事業	7ヵ月の乳児とその保護者を対象に、絵本の読み聞かせを行い、絵本とバッグを手渡し、乳児期から親子で本にふれあうことの大切さを体験できるよう努めました。対象者数424名のうち305名の参加（参加率72%）となりました。	乳児とその保護者が、いっしょに絵本を開く時間の楽しさを体験し、絵本をとおしてふれあう時間をもつ契機となりました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>A</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	A	効率性(人員)	A	①継続	II-9
有効性	A												
効果性	A												
効率性(コスト)	A												
効率性(人員)	A												
情報システムの整備	ICタグ方式の図書館システムに係る機器等の借り上げ、及び保守管理業務の委託を実施し、利用者の利便性の向上と業務の効率化を図りました。	IC機器を活用した図書館システムにより、利用者の利便性の向上、プライバシー保護及び、図書館業務の迅速化に努めました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	II-1
有効性	A												
効果性	A												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
図書館有効活用推進事業	読んだ本の記録を残すための読書手帳を作成し、小中学生には無料で配布、大人の方は1冊100円で販売しました。また、雑誌のカバーに広告を載せることができる、雑誌スポンサー制度を導入しました。8社から16誌のご協力をいただきました。	読書手帳を活用することによって、読書により親しんでいただけるようになりました。また、雑誌スポンサーも当初の予想以上の申込がありました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	②完了	II-9
有効性	A												
効果性	A												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
図書利用推進事業	学校・幼稚園・保育園・児童クラブ等へ図書を配架し、図書の利用を促すことにより、児童・生徒の読書活動を推進いたしました。11月以降は、事業を一旦休止としたため、貸出冊数は減っています。	学校・幼稚園・保育園・児童クラブ等へ毎月図書を配架することにより、図書の利用推進を図ることができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>C</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	C	①継続	II-9
有効性	A												
効果性	A												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	C												
視聴覚ライブラリー	視聴覚コーナーでの、サービスの提供と利用者の拡大を図るため、視聴覚資料の充実と機器等の保守管理業務を実施いたしました。年間利用者数は、5,836名となりました。	視聴覚コーナーでの利用者サービスを迅速に進め、利用者の拡大に務めました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	④縮小	II-9
有効性	A												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												

プラザ萬象自己点検・評価報告書(まとめ)

プラザ萬象は、市民相互のふれあいの場、つどいの場、団体活動推進の場として、あらゆるニーズに応えられるよう総合的な機能を持った多目的会館です。

① 数値目標の達成状況と分析について

【利用者数実績（年度末）】

H29年度	68,715人
H30年度	75,833人
R元年度	78,661人

【増減理由】

- ・令和元年度は、前年比2,828人増となりました。稼働率は大ホールで4.6ポイント、小ホールで2.1ポイント、会議室（4部屋）で2.2ポイント増加しています。これは4月の統一地方選挙及び7月の参議院議員選挙が実施されたほか、単年度単発イベントが多かったことが考えられます。また、大雪など天候面での利用者減少がなかったことも、利用者増につながっています。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響のため3月の利用を自粛していただいたことにより、3月の利用者が大幅に減少しております。会議室の利用においては、利用の希望があれば空いている限り利用して頂くことを心掛け、今年度利用者数の増加につながったと考えており、今後も継続していきたいと考えています。

② 利用者の拡大について

プラザ萬象は総合的な機能を持った多目的会館ですので、舞台での催し、展示、祝宴、会議など様々な用途に利用できること、JR敦賀駅から近いうえ駐車場も広くアクセスしやすいこと、休日に比べ平日はホールの使用料を低額に設定していることなどを、今後も継続してホームページでPRし利用者の拡大を図ります。今後は老朽化に伴う改修工事も必要となってくることから、利用者数が減少するケースが考えられますが、施設の維持には必要な改修工事であるため、なるべく利用者があまり不便にならないよう配慮した工事時期や工事内容を検討し、利用者の落ち込みを最小限にしていくことが必要であると考えます。

③ 利用しやすい環境づくりについて

職員の受付事務や、催事の運営等に関する助言や協力もこれまで同様丁寧に行うとともに、出来る限り利用していただく方の要望に応えるよう、「断らない」受付を心がけていきます。建物・設備の管理についても維持修繕を施し、安全で安心、快適に利用していただけるよう努めてまいります。

○プラザ萬象

事業内容	取組み状況と成果	成果の分析と評価	今後の方向	分類
施設管理運営のための業務の委託及び施設の活用のための管理運営	各種業務を委託するとともに、施設維持に必要な光熱水費、修繕費、電信電話料、消耗品等を確保し、小規模修理必要箇所を修繕し、貸館として施設の維持管理を行いました。	各設備を正常に使用することができました。 また、全ての舞台運営について、滞りなく完了することができ、安全で快適な館利用につながりました。	①継続	Ⅱ - 9
老朽化した施設等の改修のための工事	老朽化に伴う施設及び設備の改修を行いました。また、改正健康増進法が施行されることに伴い、受動喫煙を防止するための屋外喫煙所設置工事を行いました。 事務棟屋根等改修工事 自動火災報知設備改修工事 大ホール電動客席修繕 非常用自家発電設備制御装置改修修繕 多目的室・団体室エアコン取替修繕 屋外喫煙所設置工事	改修により、施設の維持が適切に行われました。	②継続	Ⅱ - 9

少年愛護センター 自己点検・評価報告書 (まとめ)

少年愛護センターは、青少年の健全な育成を図ることを目的に、各関係機関や青少年育成団体と連携し、補導活動、相談活動、青少年健全育成活動に取り組みました。補導巡視における青少年への声かけにより、地域の人に見守られているという意識付けを行うとともに、体験行事や、社会学習、啓発行事を通じて、青少年の豊かな心の醸成に役立てることができました。

なお、育成者や市民全般へは行事を通じ、青少年育成の環境浄化や家庭教育の意識を高める取り組みを行いました。

また、家庭教育や青少年自身からの悩み相談に対応することで、心身ともに健やかな青少年の成長に資することができたと考えています。

1. 青少年補導活動について

補導とは、その地域に住んでいる社会人として、わが子を愛するように地域の子を愛し、この地域を愛するという気持ちを持って、子どもたちに温かい目を注ぎ健やかな成長を見守る活動です。

令和元年度は91名の補導員により2人1組で年間を通じ延べ578回補導巡視を実施しました。

不良行為や非行につながりそうな行動をしている青少年がいたら「愛のひと声」運動を実施し、1年間に延べ636人の青少年に声かけを行いました。

声かけを行った場所としては、ゲームコーナーや量販店、書店が多く、その他公園、寺社、路上などでも声かけを行っています。

出来る限り多くの青少年に声かけを行いたいと考えていますが、近年、少子化、また、スマートフォン、携帯ゲーム機等の普及により、子どもたちが外出することが少なくなったせいか、ゲームコーナーや、公園等で見かける子どもが少なくなっています。また、ネット機器の使用によるトラブルに対応した声かけを今後検討する必要があると考え、令和元年度も、例年実施している補導員研修に、スマートフォン、携帯電話の安全な使用により子どもをトラブルから守るための研修を取り入れ、補導員の理解を深めました。このことについては、長期的な取り組みの必要性があると感じており、今後も引き続き実施していきたいと考えています。

なお、青少年を取り巻く環境を少しでも良くするために、毎年1回、福井県からの依頼で社会環境調査を実施しています。

2. 青少年健全育成活動について

青少年健全育成敦賀市民会議と連携して「地域の子は地域ですこやかに育てよう」をスローガンに、各種青少年健全育成行事を実施し、親子、仲間、地域とのふれあいの場の提供や、青少年からのメッセージの発信等を行いました。地域住民の積極的な協力により、地域の子も達を守り育てる意識の高揚に寄与しました。

5月19日「親子のフェスティバル」を開催し、約10,800人の参加を得まし

た。

10月12日に開催予定でした「青少年育成敦賀市民大会」は台風接近のため、参加者の安全を考慮し中止としました。

「青少年からのメッセージ・青少年へのメッセージ」作文、図画・ポスターの募集を行い、6,970通の応募があり、優秀作品を表彰しました。

小学4～6年生を対象とした「ひまわり塾」を7月から11月に計4回開催し、延べ86名の参加を得ました。郷土の食に関する体験学習と、施設見学等による社会学習を行い、見識を深めました。

○少年愛護センター

事業内容	取組み状況と成果	成果の分析と評価	今後の方向	分類								
青少年補導活動	<p>総勢91名の補導員が、2人1組で延べ578回、市内の量販店などの補導巡視を行い、帰宅指導、校則遵守などの声かけを、延べ636人に行いました。</p>	<p>青少年への声かけにより、地域の人に見守られているという意識付けを行い、豊かな心の醸成につながりました。</p>	<table border="1"> <tr><td>実現度</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果度</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率度 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率度 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	実現度	A	効果度	B	効率度 (コスト)	B	効率度 (人員)	B	<p>①継続</p> <p>II - 9</p>
実現度	A											
効果度	B											
効率度 (コスト)	B											
効率度 (人員)	B											
相談活動	<p>「家庭教育相談」と「青少年の悩み相談」を中心に相談活動を行いました。 元年度の相談件数は95件で、児童生徒からの進路、交友などや一般青少年からの就職、人生問題などでした。 また、少年愛護センターの家庭教育相談員が、年間21回小中学校を訪問し、教職員にアドバイスを行いました。</p>	<p>相談に共感的に対応することにより、相談者が心の安定を取り戻し前向きに考えていけるよう導くことができるとともに、家庭教育の知識向上に役立ちました。</p>	<table border="1"> <tr><td>実現度</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果度</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率度 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率度 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	実現度	A	効果度	A	効率度 (コスト)	B	効率度 (人員)	B	<p>①継続</p> <p>II - 9</p>
実現度	A											
効果度	A											
効率度 (コスト)	B											
効率度 (人員)	B											
青少年健全育成推進事業	<p>少年愛護センターは青少年健全育成敦賀市民会議と連携して「地域の子は地域ですこやかに育てよう」をスローガンに各種青少年健全育成行事を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 5月19日「親子のフェスティバル」を開催し、約10,800人の参加を得ました。 10月12日に開催予定でした「青少年育成敦賀市民大会」は台風接近のため、参加者の安全を考慮し中止としました。 「青少年からのメッセージ・青少年へのメッセージ」作文・ポスターの募集を行い、6,970通の応募があり、優秀作品を表彰しました。 小学生4～6年生を対象とした「ひまわり塾」を7月～10月に計4回開催し、延86名の参加を得、郷土の食体験学習と港で働く機械見学等を行い見識を深めました。 	<p>各種行事の開催や広報活動により、親子、仲間、地域とのふれあいの場を提供するとともに、市民に明るい環境づくりを訴え、地域住民の積極的な協力により、地域の子ども達を守り育てる意識の高揚に寄与しました。</p>	<table border="1"> <tr><td>実現度</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果度</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率度 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率度 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	実現度	A	効果度	B	効率度 (コスト)	B	効率度 (人員)	B	<p>①継続</p> <p>II - 9</p>
実現度	A											
効果度	B											
効率度 (コスト)	B											
効率度 (人員)	B											

利用団体及び利用者数について

令和元年度に当施設を利用した団体数及び延べ人数は、95団体、6,080人で、前年度に比べ団体数で41団体、延べ人数で1,960人の減少となりました。減少した要因としては、平成30年度は福井国体選手団の受入があったことや、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による利用の自粛やキャンセルなどが挙げられます。

当施設は、子供たちが集団生活と周囲の自然に触れあい、様々な体験学習を行うことができる少ない社会教育施設であり、今後も学校やスポーツ少年団、子ども会等と連携を密にし、隣接市町の各種団体の利用も視野に入れた利用者の拡大を目指します。また、利用が少ない冬期には、団体等に研修や合宿等の場としての利用をPRし、施設の有効利用を図っていきます。

主催事業について

子ども達が施設周辺の自然に親しみ、触れ合い、活動することを目的に、年2回主催事業を開催しました。

9月は「秋のふれあいキャンプフェスタ」を1泊2日で開催し、定員50名のところ、29名の親子の参加がありました。また、2月は「早春のふれあいフェスタ」を開催し、定員50名のところ、21名の参加がありました。

今後は、さらに多くの方の協力を得て、魅力ある主催事業となるよう努めていきます。

施設管理及び運営について

利用者が安全にかつ快適に利用できるよう、各種設備や施設の維持管理を専門業者に委託し、安全面や衛生面に気を配りました。

施設については、昭和54年開所以来40年以上経過し、機械設備や建物施設の劣化が目立つことから、計画的に修繕を行っていきます。

○少年自然の家

事業内容	取組み状況と成果	成果の分析と評価	今後の方向	分類								
少年自然の家のふれあいフェスタ事業	<p>年2回の主催事業を通して、参加した子供たちが自然の中で学び、自然の中で体験させる。その活動の中で一人一人の自主性を引き出し、責任を持って行動ができるよう指導を実施した。</p> <p>平成30年度は7月に開催予定だった「夏のふれあいキャンプフェスタ」が荒天により中止となったため、令和元年度は開催時期の見直しを行い9月に「秋のふれあいキャンプフェスタ」として開催した。</p>	<p>参加者については、リピーターも多く人気も高い、かつ、アンケート結果から好評であった。</p> <p>引き続き、参加者の興味を引くような内容を心がけていく。</p>	<table border="1" data-bbox="1123 416 1267 607"> <tr> <td>有効性</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>B</td> </tr> </table> <p>①継続</p>	有効性	A	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	II - 9
有効性	A											
効果性	B											
効率性 (コスト)	B											
効率性 (人員)	B											
少年自然の家の管理運営	<p>利用者が安全かつ安心して利用できるよう、各種保守点検・維持管理業務を業者に委託し、修繕箇所の補修に努めた。</p> <p>給湯器循環装置、体育館連結通路屋上雨漏りの修繕を行った。</p>	<p>建設して40年経ち、躯体施設の劣化も見られることから、目視点検等特にパトロールを強化し、危険箇所の早期発見に努め、施設の長寿命化及び安心安全を図った。</p> <p>また、修繕費の嵩むものについては、計画的に実施し、毎年の修繕費の平準化を図った。</p>	<table border="1" data-bbox="1123 797 1267 987"> <tr> <td>有効性</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>B</td> </tr> </table> <p>①継続</p>	有効性	A	効果性	A	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	II - 9
有効性	A											
効果性	A											
効率性 (コスト)	B											
効率性 (人員)	B											

文化振興課自己点検・評価報告書（まとめ）

文化振興課では「文化財の保護」と「文化の振興」を大きな二本柱として事業を行っています。

文化財保護事業では、文化財の保存と活用を一体的に捉え、より効率的な保護の実現を目指しています。そのために、文化財を地域の貴重な資産として適切な状態で保存するための措置を講じています。同時に、多くの市民に対して文化財の持つ魅力を発信し、活用を図るため、現在は文化財の修復整備を重点的に進めています。

文化振興事業では、民間の文化団体の活動を支援することで、市民自らが主体的に市民文化を創造する活動の支援を図っています。文化芸術及び科学技術分野で全国大会等に出場した個人及び団体を激励するとともに、全国又は世界大会で優秀な成績を収めた場合には、表彰し、活動を奨励しています。

1 文化財保護事業

令和元年度は、文化財保護審議会にて調査及び審議を行った結果、新たに2件の市指定文化財の指定を行い、目標値を達成しました。今後も、指定又は登録に値する文化財については調査を計画的に実施し、地域の宝である文化財の一層の保存活用を図ります。

文化財整備着手件数は目標値の達成には至っておりませんが、令和元年度に史跡武田耕雲斎等墓保存整備委員会を設置し、整備に向け検討を開始しました。

（1）埋蔵文化財発掘調査

市内の開発行為に伴う埋蔵文化財確認調査（2件）を行い、遺構を損壊することなく、また事業主に大きな影響を及ぼすことなく対応しました。

また、過去4年間の市内発掘調査の結果をまとめた報告書を作成し関係機関に頒布しました。今後も開発事業に伴う埋蔵文化財保護業務を的確に行うとともに、事業成果を文化財指定や整備に結び付けられるよう努めます。

（2）名勝柴田氏庭園の保存活用

柴田氏庭園保存修理事業は27年度から国庫補助を受け整備に着手しています。令和元年度は建造物の保存修復工事及び庭園の植栽整備工事を行うとともに、特別見学会を開催するなど、修理期間中の公開にも努めました。今後は、整備後の庭園の公開方法や管理形態について検討を進めていく必要があります。

（3）史跡武田耕雲斎等墓の保存活用

国指定史跡武田耕雲斎等墓の保全及び教育・観光への活用を図るため、委員会を開催し、今後の史跡周辺の整備の方向性について協議しました。次年度は、整備に向けて史跡や竊蔵の歴史的・建築的価値を明らかにし、保存活用計画を策定します。

2 文化振興事業

文化行事参加者数、文化施設利用者数ともに前年度よりは増加したものの、目標値の達成には至りませんでした。広報のPR不足が要因の1つと考えられるため、事業者の広報活動を支援するなど、行事参加者数の増加を図ります。

(1) 文化芸術及び科学技術等活動に対する激励及び表彰

文化芸術及び科学技術部門で全国大会等に出場した4名1団体に出場激励費を交付しました。また、全国大会等で優秀な成績を収めた7名を表彰しました。

(2) 文化芸術企画の支援

演劇や音楽、伝統芸能などの文化芸術事業を自主的に企画・実施する団体を公募し、支援することで舞台芸術文化の振興と向上を図りました。また、市民の芸術鑑賞機会の充実を図ることにもつながりました。

(3) 奥の細道全国俳句大会の支援

「奥の細道」つるが芭蕉紀行全国俳句大会を主催する敦賀俳句作家協会を支援し、「杖措きの地敦賀」のPRと俳句文化の普及を図りました。

また、奥の細道330年記念事業として、俳人夏井いつき氏の句会ライブを開催し、市民が俳句に親しむきっかけを提供しました。

今後も「芭蕉杖措きの地」として、俳句が市民に親しまれるように、事業運営の支援に努めます。

(4) 市民文化センターの管理

市民文化センターは、令和元年度から指定管理者制度を導入しています。指定管理者による効率的かつ効果的な施設の管理運営により、利用者に快適な施設環境を提供することができ、利用者増につながりました。

利用総件数は488件で33,776人の利用者がありました。前年度比では、99件の増、5,911人の増でした。

文化振興課

【文化振興課の事務分掌】

- (1) 文化関係施設の設置及び管理に関すること。
- (2) 文化財保護審議会に関すること。
- (3) 芸術文化の振興に関すること。
- (4) 文化団体の育成及び指導に関すること。
- (5) 文化財の調査、保存及び活用に関すること。
- (6) 埋蔵文化財の調査及び発掘に関すること。
- (7) 市史編さんに関すること。
- (8) 博物館に関すること。
- (9) 市民文化センターに関すること。
- (10) みなとつるが山車会館に関すること。
- (11) その他文化振興及び文化財に関すること。

【自己点検・評価】

事業内容	取組み状況と成果	成果の分析と評価	今後の方向	分類
文化財保護審議会運営費	文化財の調査、保存、指定等について審議するため、文化財保護審議会を開催しました。 市指定文化財の指定及び所要の維持管理について、専門的見地から指導及び助言を得ました。 ・審議会の開催 3回	審議会では資料そのものの学術的価値等に即して、厳正に審議が行われました。 また、指定等の措置を講じられた文化財を保存するための助言指導も行われました。	①継続	I - 14
文化財発掘調査費	開発に伴う遺跡等の損壊を防ぐため試掘調査及び現地踏査試掘調査を行うとともに、出土品等の記録等を行いました。 発掘調査の成果については、文化振興課分室にて展示を行うなど、学校教育及び生涯学習等への活用も行いました。	宅地造成等市内の開発工事については、遺構を損壊することなく、かつ事業主に大きな影響を及ぼすことなく対応ができました。	①継続	II - 11
文化振興課分室の管理運営 (その他諸経費)	文化振興課分室の維持管理を行いました。 市内遺跡等の出土品洗浄・注記・接合・実測・復元等の整理作業のほか、発掘調査に関する展示や市内小学校の校外学習の受け入れ等も行い、発掘調査の成果について、学校教育及び生涯学習等への活用も行いました。 ・校外学習受入 3校 165名	出土品の整理作業は着実に進められています。また校外学習の受入れや出土品の展示などを通じて、遺物の公開や活用が図られています。	①継続	II - 1 II - 11
柴田氏庭園保存修理事業費	柴田氏庭園保全整備委員会を開催し、委員会及び国（文化庁）の指導を受けながら、柴田氏庭園の保全整備（建物の復元修復工事、庭園の植栽整備等）を行いました。 ・委員会の開催 3回	委員会では学識経験者と地域の代表者がともに検討し、修復整備事業が着実に進捗しました。	①継続	II - 1 II - 11
史跡金ヶ崎城跡整備検討委員会関係経費	保存活用計画（H29 策定）に基づき、整備基本計画策定に向けた検討委員会を開催しました。 ・委員会の開催 1回	委員会を開催し、今後の整備基本計画策定に必要な課題を抽出し、委員会での共有を図ることができました。	①継続	II - 11

氣比神宮文化財保存修理事業費補助金	氣比神宮境内にある中鳥居1基と石灯籠2基がH30の台風被害により損傷したため、保存修理事業を行う所有者に対して事業費を補助した。	保存修理事業が実施され、文化財の保護を図ることができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>A</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	A	効率性(人員)	A	②完了	II - 11
有効性	A												
効果性	A												
効率性(コスト)	A												
効率性(人員)	A												
名勝「けいの明神」保存活用検討委員会関係経費	国指定名勝「おくのほそ道景勝地 けいの明神(氣比神宮境内)」の保存活用計画策定に向けて、準備委員会を開催しました。 ・委員会の開催 1回	今後の計画策定に必要な課題を抽出し、委員会での共有を図ることができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	II - 11
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
史跡武田耕雲齋等墓活用整備事業費	国指定史跡武田耕雲齋等墓の保全及び教育・観光への活用を図るため、史跡武田耕雲齋等墓保存整備委員会を開催し、今後の一体的な史跡整備の方向性を協議しました。 ・委員会の開催 2回	委員会を開催し、今後の計画策定に必要な課題を抽出し、委員会での共有を図ることができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	II - 11
有効性	A												
効果性	A												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
文化財保護管理費	市内に所在する文化財を将来にわたって良好に保存・活用するために必要な保護管理(清掃管理・機械警備・植栽管理等)を実施しました。 ・史跡中郷古墳群、史跡玄蕃尾城跡、史跡武田耕雲齋等墓、名勝柴田氏庭園、史跡疋壇城跡、旧敦賀港駅ランプ小屋、史跡武田耕雲齋本陣跡(旧新保陣屋)、史跡駐輦の碑、第19連隊記念碑、木ノ芽古道、深坂古道、等	適切な保護管理を実施することで、文化財の保全を図るとともに、それら文化財の公開を行うことで市民の文化財保護意識の向上を図ることができました。 また、一部文化財について地元住民による管理が実施されており、住民による文化財保護の推進が図られています。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	II - 1 II - 11
有効性	A												
効果性	A												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
文化財保存管理補助金	・国指定重要無形民俗文化財の「敦賀西町の綱引き(夷子大黒の綱引)」の実施と事業伝承のために発足した、敦賀西町の綱引き伝承協議会に対し支援しました。 ・無形民俗文化財の保存継承と後継者の育成を図るため、実施7団体(7行事)に対し支援しました。 ・私立敦賀郷土博物館に所蔵されている指定文化財等の管理保存のため、同施設に補助しました。 ・指定文化財の保存、修理、管理のため、西福寺(書院庭園の樹木管理業務)、天満神社(本殿・石の間の拝殿修理事業)に対し補助しました。 ・敦賀まつりの山車保存のための修理を行う「つるがの山車保存会」に対し補助しました。	継承に苦勞している地域もあるが、全体としては多くの行事が継承されており、文化財の保護と次世代への継承に繋がっています。 また、地元の努力と行政による支援によって認知度が向上しており、そのことが担い手の意識を向上させ、文化の継承に繋がっています。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	II - 11
有効性	A												
効果性	A												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												

文化財広報普及事業費	文化財保護活動への意識向上及び広報普及のための事業を実施しました。 ・文化財パンフレットの作成 ・玄蕃尾城跡パンフレットの作成 ・文化財説明標示板等の修繕	文化財の魅力を広く広報することで、文化財の認知度が向上し、市民の文化財保護に関する意識醸成を図ることができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	II - 11
有効性	A												
効果性	A												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
文化芸術企画支援事業費	舞台芸術文化の振興と向上のため、演劇や音楽、伝統芸能などの文化芸術事業を自主的に企画・実施する団体を公募し、支援しました。 ・琉球國祭り太鼓福井支部 「琉球國祭り太鼓福井支部 10 周年記念公演」 ・南米民族音楽研究会 「リチャリー ジャパンツアー-2019in 敦賀」 ・敦賀こどもミュージカル実行委員会 「第 8 回敦賀こどもミュージカル」	舞台芸術を中心に文化芸術事業を自主的に企画・実施する団体の活動支援をすることで、市民が主体となる高度な舞台芸術文化の振興と向上を図ることができました。また市民の鑑賞機会の充実につなげることができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	II - 16
有効性	A												
効果性	A												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
文化振興事業費	芸術文化の振興を図るため、各種文化事業を実施しました。 ・共催、後援による支援 (50 事業) ・市民ギャラリーの開催 (毎月展示替え) ・文化芸術活動激励費の贈呈 (4 名、1 団体) ・文化芸術及び科学技術活動優秀賞表彰 (7 名 2/20 実施)	市民ギャラリーでの作品展示によって文化活動の支援及び市民の文化意識向上につながりました。文化芸術・科学技術分野で活躍する市民を激励・表彰することで活動に対するモチベーションを高め、人材の育成及び本市の文化及び科学水準の向上を図ることができました。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>A</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	A	効率性(人員)	A	①継続	II - 16
有効性	A												
効果性	A												
効率性(コスト)	A												
効率性(人員)	A												
文化団体等補助金	本市の歴史文化、芸術の振興を図るため、公益的な活動を行っている団体に対し支援しました。 ・気比史学会 主催事業 市民歴史講座の開催 (5 講座 受講者延 416 名) ・敦賀市文化協会 主催事業 (教育委員会共催・後援事業) 敦賀市総合美術展 市民文化祭 敦賀市書道展 等 (12 事業 参加者等延 11,355 名) ・敦賀水戸烈士遺徳顕彰会 史跡武田耕雲斎等墓周辺の保全管理 水戸烈士遺徳顕彰事業の開催 水戸天狗党に関する普及啓発活動 水戸烈士記念館 (練倉) の管理 姉妹都市水戸市との親善交流 等	気比史学会は歴史に立脚した市民文化を構築するため、テーマを工夫して定め、幅広い市民が郷土史への関心を持てるよう努めており、本市の歴史文化の振興に大きく寄与しています。 文化協会は多くの文化芸術事業を主催しており、本市の文化振興の推進に対する寄与度は非常に高く、今後も文化芸術の振興と次世代への文化の継承に向けて、継続的な連携を図っていくことが重要です。 敦賀水戸烈士遺徳顕彰会は史跡環境の保全活動、普及啓発活動により、史跡の環境保全、郷土の歴史文化の普及に寄与しています。また、親善交流活動や遺徳顕彰活動により姉妹都市水戸市をはじめとする関係自治体との交流促進にも寄与しています。	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	①継続	II - 9
有効性	A												
効果性	A												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												

<p>つるが芭蕉紀行開催事業</p>	<p>・「杖措きの地 敦賀」を広く内外にPRし、俳句を通した文化振興を図るため、「奥の細道」つるが芭蕉紀行全国俳句大会を主催する敦賀俳句作家協会に対し支援しました。</p> <p>・開催日 令和元年10月20日 ・投句数 事前投句 684句(207名) 当日投句 128句(64名) こどもの部 2505句(2296名) ・奥の細道 330年を記念し、市民が俳句に親しむきっかけを提供するため、夏井いつき氏の句会ライブを開催しました</p>	<p>俳句大会こどもの部について、市内各小学校を通じて俳句作品が寄せられたほか、児童クラブにおいて俳句教室を実施しました。俳句愛好者のみならず、子どもからも多くの応募があり、俳句文化の振興と、次世代への継承が図られました。また、夏井いつき句会ライブは俳句初心者の参加も多く、市民に気軽に俳句に親しむきっかけを提供できました。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	<p>①継続</p>	<p>II - 16</p>
有効性	A												
効果性	A												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
<p>市民文化センター運営事業費</p>	<p>市民文化センターに指定管理者制度を導入し、新しい指定管理者が施設の管理運営を行いました。</p> <p>利用件数実績 488件 (H30 389件) 利用人数実績 33,776人 (H30 27,865人)</p>	<p>指定管理者による効率的かつ効果的な施設の管理運営により、利用者に快適な施設環境を提供することができ、利用者増加につながっています。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>A</td></tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性(コスト)	A	効率性(人員)	A	<p>①継続</p>	<p>II - 1 II - 9</p>
有効性	A												
効果性	A												
効率性(コスト)	A												
効率性(人員)	A												

博物館 自己点検・評価報告書（まとめ）

令和元年度は、松尾芭蕉が『おくのほそ道』に記した旅からちょうど330年目の記念の年であり、市内でも関連事業が行われる中、特別展『おくのほそ道』330年の旅を開催しました。当館ではこれまでも『おくのほそ道』に関する展示や行事は多数実施しており、集大成といった意味合いの展示となりました。しかし俳句人口の高齢化、減少に加え、台風の頻発などもあり、会期中の入館者数は前年度の特別展を大きく下回る1,339名（前年度1,715名）となりました。しかし市内の地域史研究グループと協力して開催した講演会は内容が大変好評で、『おくのほそ道』という普遍的ともいえるテーマは当市の歴史文化を語る上でも重要なコンテンツであるため、今後市民の興味を集めるにはどういった方法が有効か、検討の必要が大きいと感じました。

そのほか、従来の調査研究等の成果をもとに企画展「敦賀の祭り」、特集展示「明治の郷土画家・内海吉堂」なども開催し、特に「明治の郷土画家・内海吉堂」は特別展を上回る1,552人の入館者がありました。研究の蓄積に基づく展示は博物館活動の本来的なもので、今後もより質の高い展示を目指していくことは必須ですが、集客という意味では展示テーマの選定や見せ方、開催時期なども十分に考慮して計画して行きたいと思います。

その外歴史講座や史跡見学会も実施しましたが、ダイヤモンド・プリンセス寄港時に実験的に実施した体験講座は小規模ながら好評で、今後の展開にあたって良い実績となりました。

調査研究事業では、敦賀の山車総合調査は補足の調査のみとなりましたが、例年に引き続き、郷土の歴史文化に関わる文化財の調査を行っています。

館蔵資料のアーカイブ化を順次すすめています。昨年開設した博物館収蔵品データベースへの新たな登録、公開については十分に追いついておらず、膨大な民具資料の整理と併せて今後力を入れていくべき課題です。

また新規事業として平成29年度に寄贈のあった地誌「白木のあゆみ」外手書きによる地域の記録（全599冊 紙数54,722枚 撮影データ19,942件外）の整理業務委託を行い、リスト等を整備いたしました。膨大な資料の今後の整備や活用につなげていくものといたします。

入館者数は、2月以降の新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、昨年度を下回る9,826人と、昨年度の10,279人から453人の減となりました。

今後は、感染対策を考慮しながらも、アンケート調査など通して来館者のニーズ等も分析し、個性ある事業展開やインバウンド対応などにも配慮して、北陸新幹線開業に向けた準備を進めていくものといたします。

○博物館

事業名	取組み状況と成果	成果の分析と評価	今後の方向	分類
博物館協議会委員の活動	協議会を3回開催し、博物館の諸活動に対し、市民や有識者の立場からの意見を聞くことができました。	博物館の運営・活動に対して、前向きな評価やご意見をいただいている。	①継続	Ⅱ - 1
調査研究	館蔵資料や問い合わせ対応にかかる調査、市内民俗行事などの調査、敦賀の山車総合調査の継続調査等を行いました。また研究紀要を発刊しました。	資料整理、調査研究業務の停滞は常態化しています。今後の質の高い博物館活動のためにも、資料の調査・整理・データ化の継続は必要です。	③拡大	Ⅱ - 11
館蔵資料の収集	美術工芸資料1、歴史資料9点を購入しました。	博物館として貴重な資料を購入することが出来ました。	③拡大	Ⅱ - 11
展示会の開催	特別展『おくのほそ道』330年の旅、夏休み自由研究企画展「敦賀の祭り」、企画展「近代日本のステンドグラス」、特集展示「明治の郷土画家・内海吉堂」、史跡見学会、歴史講座、クルーズ船寄港に合わせた体験講座外を実施しました。 入館者 9,826人 館外行事等参加者 702人 総利用者数 10,8528人 前年比 入館者数 453人減、 総利用者数 307人減	地道な調査研究や資料整理は軽視され、後回しにせざるを得ない状況が常態化していますが、その積み重ねを基盤としない博物館活動は意義が軽くなりかねず、バランスのとれた運営を行っていくべきだと考えます。	③拡大	Ⅱ - 16
博物館管理運営	清掃、空調、消防、エレベータ機器点検等業務委託にて実施しました。	館内の安全・衛生は保たれていますが、各種機器などに故障が増えています。文化財建物により配慮した施設管理を目指したい。	①継続	Ⅱ - 1
館蔵資料デジタルアーカイブ	これまでに引き続き文書、絵図等関連資料の撮影を進め、アーカイブの充実を図りました。 取り込みデータ(カット)数 1000カット以上	データ化する資料の幅を広げ、今後活用できる資料の画像を予定より増やすことができました。	①継続	Ⅱ - 16

<p>「白木のあゆみ」保存活用事業費</p>	<p>平成 29 年に寄贈を受けた橋本昭三氏著「白木のあゆみ」今後の活用に向けたデータ整理業務委託を行いました。</p> <p>[委託業務内容]</p> <p>目録の整備照合、既撮影データ等の整理・リスト化、整理手順計画などの作成、作業他。(全 599 冊 紙数 54,722 枚 撮影データ 19,942 件外)</p>	<p>膨大な資料が整理され、今後の活用がしやすくなりましたが、量が膨大なため、整理・公開・活用は容易でないことが判明しました。</p>	<table border="1"> <tr> <td>有効性</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>B</td> </tr> </table>	有効性	A	効果性	A	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	<p>継続</p>	<p>II - 16</p>
有効性	A												
効果性	A												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												

施設管理及び運営について

郷土の誇る文化遺産である山車の保存を図るとともに、施設維持に係る業務委託、修繕等を計画的、継続的かつ確実に遂行しました。別館エアコンの取り替え修繕等を予定通り実施したほか、設備の不良に随時対応しました。平成9年度の開館から22年が経過しており、本年度は雨漏りや漏水等、経年劣化による想定以上の不具合が発生し費用が嵩みました。今後、改修や入れ替えを必要とする機器が増える事が予測され、駐車場内の土蔵も、依然として屋根瓦落下の危険性があるため、緊急性を考慮し、計画的に予算要求及び改修を実施し施設の安全性と長寿命化を図る必要があります。

文化財建物である別館の調査事業について

令和元（平成31）年度は、山車等とともに日本遺産「北前船寄港地・船主集落」の構成文化財に認定されている別館建物（旧大和田銀行社屋）の、国登録有形文化財への登録へ向け、詳細調査を実施しました。港町敦賀の発展とともに成長した銀行の用途に合わせた増改装の痕跡が判明するなど、文化財としての価値が明確化し、次年度の登録申請へ繋がる成果を得ました。継続して、劣化した建物の修復と有効活用の検討を進めていきます。

入館者数と利用者増加への取組みについて

入館者数は、有料3,329人（前年比522人減）、無料4,405人（前年比484人増）合計7,734人（前年比38人減）でした。利用者増加への取組みとして、団体利用の促進を図るため、小中学校への案内送付を県外近隣市町まで広げ、来館した団体、旅行社等へ再度の利用を働きかけました。館内では、展示内容の充実のため、平成29年度より博物館とともに実施している山車総合調査の成果を踏まえて古い装飾品等の企画展示を行いました。今後、調査結果を基に山車巡行の無形民俗文化財への登録を目指しており、更なる魅力発信、集客へも繋げたいと考えています。また、インバウンド受入れへの試行として、クルーズ船入港に合わせ、博物館通りの施設、店舗が連携した館内ツアーを実施し、課題等を探りました。

まとめ

成果の指標のひとつとすべく、昨年度よりアンケートに力を入れており、今年度は満足度99.3%（回答479人）と高評価を得ました。しかしながら、入館者数では今年度も目標に大きく届かない結果を受け、魅力向上を図ることとあわせて、魅力の発信に注力しなければ、集客に繋がらないと感じました。施設の在り方を検討する上で、教育施設として多くの方に歴史ある山車を見ていただく事で山車の素晴らしさを伝えるとともに、集客力を持った観光施設としての側面も期待されており、そのためには費用をかけた広報の検討も必要ではないかと考えます

○みなとつるが山車会館

事業名	取組み状況と成果	成果の分析と評価	今後の方向	分類								
管理運営	<p>施設環境の維持・向上のために必要な業務を行いました。</p> <p>清掃、警備、各種機器点検等を業務委託により継続的に実施したほか、別館エアコンの取替修繕や本館空調設備等の修繕を行いました。また、屋上の雨漏りや給水管の漏水等、経年劣化により発生した不具合や調査により判明したシロアリ被害等に随時対処し、施設の安全性と快適性の確保に努めました。</p> <p>県内外の学校へ団体利用の働きかけを行ったほか、企画展示を実施し広報することで、展示内容の充実と継続的な情報発信に努めました。また、クルーズ船入港に合わせた外国人向け館内ツアーを実施し、インバウンド対応への工夫や課題点を探りました。館内の多言語表記の充実、周囲と連携した魅力作りと集客方法等の検討が必要です。</p>	<p>山車の保存管理は滞りなく継続されています。</p> <p>当初の予定どおり施設管理、機器改修等を実施し、発生した不具合は、緊急性の高いものから順に修繕を行ったことで施設の安全性、快適性が保たれました。</p> <p>経過観察、保留中の不良は、緊急性を考慮の上、計画的な改修が必要です。</p> <p>館内の充実と集客に努めましたが、依然として情報発信力が弱く、入館者数は横這いでした。(入館者数 7,734人 前年比 99.5%)</p> <p>インバウンド対応への試作により課題も見え、今後の取組みを検討する足掛かりとなりました。</p>	<table border="1" data-bbox="1123 535 1272 721"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table> <p>①継続</p>	有効性	B	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	<p>Ⅱ - 1 Ⅱ - 11</p>
有効性	B											
効果性	B											
効率性 (コスト)	B											
効率性 (人員)	B											
旧大和田銀行初代本店文化財登録調査事業	<p>日本遺産「北前船寄港地・船主集落」構成文化財である旧大和田銀行初代本店(山車会館別館建物)について、国登録有形文化財への登録申請に向け、詳細調査及び申請書類の作成を業務委託にて実施しました。</p> <p>また、調査によりシロアリ被害が発見されたため、防除と資料燻蒸を行いました。</p>	<p>調査により、建物の文化財としての価値が明確化し、次年度の登録申請に確実に繋がる成果を得ました。</p> <p>また、調査により判明した不具合に対処し、今後の活用、修復検討までの建物維持に繋げました。</p>	<table border="1" data-bbox="1123 1003 1272 1189"> <tr><td>有効性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table> <p>①継続</p>	有効性	A	効果性	A	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	<p>Ⅱ - 1 Ⅱ - 11</p>
有効性	A											
効果性	A											
効率性 (コスト)	B											
効率性 (人員)	B											

スポーツ振興について

市民一人ひとりが、身体的、精神的、環境的に多様化する日常の中で、いかに明るく豊かで活力のある生活を送ることができるかを念頭に置き、各種スポーツ関連団体の育成・指導に力を注いで参りました。

スポーツは、競い合うこともさることながら、生涯に亘って自らの健康状態を自覚するとともに、健康の増進に努めなければならないことを自省する上でもとても意義のある方法であり、地域再生や医療費削減の手法として、非常に重いウエイトを担う位置づけとなっております。

元気な高齢者と反して、バーチャル環境に身をおき、体力低下や生活環境の悪化に苦しむ子ども達には様々な機会の提供が必要不可欠であり、その先駆けの取り組みができたと考えております。

令和元年度の各スポーツの振興に関する事業の参加者数は12,387人（前年度7,772人）となり、昨年度と比較して大幅に増加いたしました。増加の要因としては、福井しあわせ元気国体・大会の開催に伴い休止していた敦賀マラソン大会や、県民スポーツ祭及び市民スポーツ祭の開催が大きく影響していると考えられます。第6次総合計画では平成28年度の目標年次に掲げた17,450人という目標値を下回る現状ではございますが、さらなる競技力向上やスポーツ人口の拡大等について、今後、鋭意努力を行ってまいります。

また、30年度の福井しあわせ元気国体の開催によりクローズアップされたスポーツに対する機運をスポーツ人口拡大に繋げる取り組みとして、特に小学校低学年等を対象に「SOMP Oボールゲームフェスタ」を開催し、延べ約300名の参加がありました。さらに、例年どおり優秀指導者を招いたスポーツリーダーセミナーやコンディショニングセミナーを開催いたしました。

今後も、質の高いセミナーや教室・行事の開催を通じて、本市の競技者や指導者の資質向上及びスポーツ人口の拡大に向けて取り組んでまいりたいと考えております。これらのスポーツ振興事業と平行しながら、スポーツを学び、スポーツで学ぶことのできる環境の整備を進めるとともに、市民総スポーツ実現のため、普及・振興を図り、人を育み、文化を創る都市づくりを目指します。

スポーツ施設について（運動公園を除く）

市内には14の体育施設があり、令和元年度の総利用人数は154,959人（前年度164,843人）となり、前年度と比較すると9,884人の減少となりました。第6次総合計画では平成28年度の目標年次に200,000人という目標値をかかげており、目標達成に向けた鋭意努力を行っているところではありますが、目標値からは約4万5千人下回るという結果となりました。

減少した大きな理由としては、令和2年2月～3月に市立体育館の原子力防護施設工事実施に伴う閉館や、雨天により地区体育祭などの行事等が中止となったことなどが考えられます。今後は、利用者が安心してより良い環境でスポーツに取り組むことが

出来るよう、施設の維持管理等を行い、今後のスポーツ振興及び利用者の拡大等に繋げていく必要があると考えております。

現在、ほとんどの施設で受付や清掃等を委託しており、目標到達に向け、今後は更に利用者に対する接遇の向上や安全で安心して利用できるスポーツ施設を心がけて参ります。

指定管理者制度導入につきましては、平成18年度に「きらめきスタジアム」で導入し、平成28年度から新たに5年間の指定管理者として引き続き敦賀市ソフトボール協会が選定されています。また、平成20年度からは「武道館」も指定管理者制度を導入していますが、平成30年度から5年間の指定管理者として引き続き敦賀市シルバー人材センターが選定されております。両指定管理者ともに、受付から許可書の発行などスピーディな事務の実施を行うなど、市民サービスの向上と人件費等の経費削減を図りました。

施設の主な修繕関係では、各施設の老朽化が著しい箇所や設備について適宜修繕を行い、施設の整備促進及び維持管理に努めました。しかし、これらのスポーツ施設を含め、効果的な施設の運営を実施するためには、一般利用者はもとよりスポーツ協会、学校関係者や地域の各種団体との連絡調整が重要となっております。

総合運動公園について

市民の憩いの場として親しまれている総合運動公園は、市民だけでなく県内外から年間180,626人（前年度183,415人）の利用者がありましたが、第6次総合計画では平成28年度の目標年次に240,000人という目標値をかかげており、約5万9千人下回り、目標を達成することができませんでした。これは、総合運動公園体育館やプールなど、福井しあわせ元気国体の競技会場となった施設において平成30年度の利用者数が一時的に増加し、例年並みの利用者数に落ち着いたことが大きな減少の要因と考えられます。今後、総合運動公園が立地する地域周辺ならでの自然の美しさ、豊かさを提供し、快適で、安全、安心な施設として利用できるように努力して参ります。

令和元年度については、例年と同様に施設の老朽化により修繕等が頻発し、当初予算を上回る経費が必要となりました。主な修繕・工事としては、体育館消防防排煙設備修繕、ローラー滑り台修繕、汚水ポンプ取替修繕、高圧ケーブル取替修繕、真空遮断器他取替修繕、陸上競技場会議室やテニス場受付のエアコン取替修繕、体育館デジタル時計修繕、ちびっ子広場鉄製総合遊具修繕、体育館消火栓ポンプフート弁取替修繕、体育館消防設備不良箇所修繕、非常用発電装置部品取替修繕等を実施しました。毎年のように各施設の経年劣化による老朽化が進み、修繕が増える傾向にありますが、予算の削減に伴い、例年、職員による作業等で対応する機会が増えております。一方、利便性向上のため、旧国体推進課事務室を引き続き会議室等として使用を可能とすべく消防設備の修繕を実施いたしました。また、プールにおいても、プール消防設備不良箇所取替修繕、プール温水ボイラ廻りバタフライ弁取替修繕、オゾン反応処理装置修繕、50mプール無試薬形遊離塩素計、50mプールろ過機廻り配管修繕、25mプール用監視カメラ取替修繕、2階身障者トイレ自動ドア修繕等、劣化により設備

の故障、修繕が続いています。

このような状況を踏まえ、今後も、運動公園施設の老朽化に伴う改築コストの平準化など計画的な整備計画を行うため、運動公園の長寿命化計画を基に、運動の拠点として、地域住民が生涯にわたり各種のスポーツ活動を主体的、継続的に実施できるようより一層の施設環境の整備、充実を図り、安全、安心な施設づくりを目指します。

ス ポ ー ツ 振 興 課

【スポーツ振興課の事務分掌】

- (1) スポーツ振興審議会に関すること。
- (2) スポーツ推進委員に関すること。
- (3) スポーツ施設の設置・管理・貸与及び廃止に関すること。
- (4) 社会体育並びにレクリエーションに関すること。
- (5) 市民の体位の向上・スポーツの推進に関すること。
- (6) スポーツ団体の指導育成に関すること。
- (7) 総合運動公園の管理運営に関すること。
- (8) 武道館の管理運営に関すること。
- (9) その他社会体育に関すること。

【自己点検・評価】

事業内容	取組み状況と成果	成果の分析と評価	今後の方向	分類
スポーツ振興審議会の活動	スポーツ基本法第31条の規定に基づき、敦賀市スポーツ振興審議会を設置、施設の整備や事業、競技力向上など、スポーツの振興に関する事項について調査審議し、スポーツ振興に寄与しました。 年2回開催 延べ11名出席	スポーツの振興に関する重要事項等について、中立公正な立場から調査、審議及びその決定を行っています。	①継続	Ⅱ - 1 0
総合型地域スポーツ活動推進事業	本市で唯一設立されている敦賀北スポーツクラブを支援し、活動の充実を図るとともに、テニス、軟式野球等競技協会と調整を図り教室等を開催しました。 ・一般・中高年向けスポーツ教室の開催・イベントの開催（計4種目、19教室） ・ニュースポーツ普及のための各種教室・行事の開催 ・総合型地域スポーツクラブ等（3団体）の育成・支援	スポーツ教室には募集定員を超えるものもあり、市民の健康への意識の高さが窺われます。また、北スポーツクラブは積極的に市の事業に協力・参加いただいております。	①継続	Ⅱ - 1 0
敦賀マラソン大会	商店街等の市街地コースを走破し、市民の声援を背に楽しく走る大会として、周辺住民、警察等交通規制の関係団体などと協働し、更なるマラソン競技の普及と市民の健康増進を図りました。 なお、平成29年度及び30年度については、福井国体開催の影響により本大会を休止していたため、3年ぶりの開催となりました。 令和元年10月20日（日） 参加申込数：2,741人（前回大会 3,835人）	協力団体やコースとなる地域住民の協力の下、市民マラソンとして定着。更なるマラソン競技の普及と市民の健康増進を図るとともに、地域住民諸関係団体との連絡を密に開催しました。	①継続	Ⅱ - 1 0

<p>スポーツ推進委員の活動</p>	<p>地域でのスポーツ活動やニュースポーツの普及・振興をはじめ、スポーツ教室の指導、各種大会の運営補助等を行いました。また、指導者を対象とした実技等の研修会に参加し、指導面と技術向上に努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニュースポーツ教室（グラウンド・ゴルフ、スティックリング、ショートテニス）における実技指導と普及振興 ・出前講座、体験教室等の指導者派遣（ディスプレイ、キボール、加リング外） ・ニュースポーツ体験王国（令和元年7月7日開催） ・市主催大会への運営補助 <p>野坂山市民登山</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国研修会（三重県津市）、北陸研修会（福井県福井市）、県研修会 外への参加 	<p>指導者のスキルアップを目的とした実技研修の実施と他市町との情報交換、技術交流を図るため各種大会に参加しました。また、ニュースポーツ普及のための出前講座や教室に講師を派遣することができました。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	<p>①継続</p>	<p>Ⅱ - 1 0</p>
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
<p>スポーツ振興補助金</p>	<p>市民の健康推進を根底に市民登山を実施しております。また、各種大会の補助を通じてスポーツ振興を図りました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月28日 野坂山市民登山：250名 ・7月27・28日 第27回気比の松原招待サッカー大会 48チーム650名 ・6月22・23日 第50回福井レガッタ 53クルー87名 	<p>夏休み、海水浴シーズンに開催されることでスポーツによる交流だけでなく、観光や宿泊などへの経済効果も図られました。また、野坂山登山道の補修について、野坂山振興会、山の会等の協力によりシーズン中の登山者の安全が確保されました。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>A</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>A</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	A	効率性(人員)	A	<p>①継続</p>	<p>Ⅱ - 1 0</p>
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	A												
効率性(人員)	A												
<p>野球フェスティバルの開催</p>	<p>市長旗高校野球大会と小・中学生軟式野球大会を同時に野球フェスティバルとして開催し、小中高一貫指導体制を確立しました。</p> <p>【参加者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嶺南地区の高校 5チーム ・二州地区の中学校 7チーム ・二州地区の学童野球 11チーム 	<p>野球フェスティバルは小・中・高校生が一堂に会する大会であり、全国的に稀で貴重なイベントであります。連盟、各チームの協力によりスムーズな運営ができました。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	<p>①継続</p>	<p>Ⅱ - 1 0</p>
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
<p>県民スポーツ祭参加費補助金</p>	<p>生涯にわたって元気で活力のあるスポーツライフを実現しようとする県民スポーツ祭の市町対抗の部へ本市選手団を派遣する敦賀市スポーツ協会に対し助成し競技力の向上を図りました。</p> <p>なお、平成30年度は、福井国体開催の影響により大会が休止されたため、2年ぶりの参加となりました。</p> <p>令和元年6月4日から10月6日までの間、23競技選手・役員計530名を派遣、9競技で1位を成績を収めました。</p>	<p>参加した23競技中17競技で入賞しており、全体的に選手の競技力の底上げ、向上が着実に図られていると考えられる一方で、選手が揃わず不参加となった競技もありました（2競技）。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	<p>①継続</p>	<p>Ⅱ - 1 0</p>
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												

スポーツ レベルア ップ事業	<p>本市スポーツのレベルアップを図るため、ジュニア層の強化を図るとともに、指導者を育成し、競技力の底上げを行いました。また、全国大会出場選手等の激励顕彰を行い、選手の向上心を高め、競技スポーツの技術向上に繋がりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国大会出場激励数 28 団体 個人 124 名 ・優秀選手市長表彰事業 個人 7 名 ・スポーツリーダーセミナー 延べ 26 名 ・コンディショニングセミナー延べ 349 名 ・強化指定種目補助事業 7 団体 ・学童野球教室開催事業 令和元年 8 月 11 日（日） 参加者 約 150 名（選手・指導者） 	<p>優秀指導者等によるセミナーの開催により指導者の資質向上、選手の競技力向上が図られおり、併せて強化指定種目補助を行うことにより、指定クラブ等が全国大会レベルで活躍しています。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続	Ⅱ - 1 0
有効性	B												
効果性	B												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												
スポーツ 振興の支 援 (スポーツ 少年団)	<p>スポーツを通じて心と身体を鍛え、たくましい活力に満ちた生活を営み、互いに協調、協力しあえる青少年の育成を目的に各団が特色ある活動を行っています。また団員同士の交流活動を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 38 団、1,042 人が団員として登録 ・ 12 月から 1 月にかけて単位団ごとに体力テストを実施 35 団 820 名が参加 	<p>全国的に、少子化による個々の団における団員数の偏りが顕著となっています。今後、未加入の子供にスポーツへの関心をたかめ、体を動かす楽しさを浸透させるため PR を行う必要があります。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続	Ⅱ - 1 0
有効性	B												
効果性	B												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												
スポーツ 振興の支 援 (スポーツ 協会)	<p>心身共に健康で実践力に満ちた市民育成を念願し、活動の充実と、より一層関心を深めるため、競技力の向上と市民総スポーツを目指して活動する市スポーツ協会に対し支援を行いました。（競技力向上に関する事業、社会体育振興に関する事業）</p> <p>市民スポーツ祭や加盟団体による各競技大会の運営等においてもスムーズに進めることができました。また、ジュニア層の育成等に積極的に取り組むなど加盟団体独自での活動も活発に行われています。</p>	<p>各競技団体においては、従来の活動に加えジュニア層の育成など活発になってきています。しかし、活発になればなるほど活動場所の確保が困難となってきており、屋内外問わず調整が必要と考えられます。地区体協においては、スポーツを通じて世代間交流・健康増進等に大きな役割を果たしています。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続	Ⅱ - 1 0
有効性	B												
効果性	B												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												
国内スポ ーツ交流 事業	<p>友好都市である各務原市の市民と敦賀市民が、スポーツを通じて友好を深めるとともに競技力の向上を図りました。</p> <p>なお、例年交流を行っている姉妹都市である水戸市については、新型コロナウイルス感染防止対策のため交流対象事業が中止となりました（剣道競技）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学童軟式野球（各務原市） 	<p>友好都市である各務原市との交流を図るとともに、質の高い試合ができました。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続	Ⅱ - 1 0
有効性	B												
効果性	B												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												
市民スポ ーツ祭の 開催	<p>スポーツを通じ、市民の健康と体力増進を図り、広く市民相互の親睦と交流を深めるため、敦賀市スポーツ協会への委託事業として 9 月 23 日、29 日、10 月 6 日、14 日の 4 日間にわたり市民スポーツ祭を開催しました。</p> <p>なお、平成 30 年度は福井国体開催の影響により大会を休止したため、2 年ぶりの開催となりました。</p>	<p>地区によって、単独チームを構成できない競技もありますが、できる限り多くの選手が参加できるよう競技団体・地区体協において運営方法の見直しが行われ、多くの市民が交流することができました。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性 (コスト)	B	効率性 (人員)	B	①継続	Ⅱ - 1 0
有効性	B												
効果性	B												
効率性 (コスト)	B												
効率性 (人員)	B												

全国高等学校野球選手権大会出場激励費	甲子園に出場する市内の高校に対し激励費の贈呈を行いました。 ・第101回全国高等学校野球選手権大会 ・令和元年8月6日から16日間 ・1回戦 富島(宮崎)○5-1 ・2回戦 国学院久我山(西東京)○19-3 ・3回戦 仙台育英(宮城)×3-4	3回戦敗退となりましたが、猛打と堅守で甲子園を沸かせた活躍は、敦賀の全市民に活力と感動をあたえ、敦賀気比高校の名前とともに敦賀市の名を全国にアピールすることができました。	有効性 A 効果性 A 効率性(コスト) B 効率性(人員) B	②完了	Ⅱ-10
学校体育施設開放事業	2校(小学校1校、中学校1校)のグラウンドを夜間開放。4月から10月までナイター利用として一般開放しました。定期的に日程調整の抽選会を行い、スムーズにナイター利用ができるよう努めました。 なお、令和元年度より角鹿中学校グラウンドが開放中止となりました。 ○利用者数1,550人(前年度 2,186人) ※前年度増減比 70.90%	スムーズな運営・利用が図られておりましたが、利用者の使用予定日に雨天などの天候不順や、角鹿中学校グラウンドの開放中止により、昨年と比べ利用者は減少しました。	有効性 B 効果性 B 効率性(コスト) B 効率性(人員) B	①継続	Ⅱ-10
体育館管理運営	大きな大会などに利用できるよう施設利用の日程調整など管理運営を行うとともに、住宅地の中にあり個人利用も多いため、益々の利用促進に努めました。 なお、令和2年2月17日から3月31日まで、原子力防護設備工事のため閉館いたしました。 ○利用者数31,704人(前年度 36,276人) ※前年度増減比 87.40%	体育館としては管理している施設の中で一番古い施設ですが、運動公園体育館に次いで広い施設であり、唯一フットサルやインドアテニスなど冬季間の利用が出来る施設でもあり、利用しやすい施設として管理運営に努めました。 原子力防護設備工事による閉館のため、昨年と比べ利用者数は減少しました。	有効性 B 効果性 B 効率性(コスト) B 効率性(人員) B	①継続	Ⅱ-10
野球場管理運営	施設の再開場に向けた整備・修繕を実施し、場外飛球防止のため試合やバッティング練習を禁止する等、利用方法を制限したうえで、平成29年7月28日より施設を再開場しています。再開場後も効率的な運営や安全確保に努め、施設の維持管理を行いました。 ○利用者2,115人(前年度 3,946人) ※前年度増減比 53.60%	施設修繕や関係団体等との調整を行い、平成29年7月28日より施設を再開場しております。ただし、施設全体の老朽化が顕著であり、今後の活用策に検討を進め、方針を導き出す必要があります。	有効性 B 効果性 B 効率性(コスト) B 効率性(人員) B	①継続	Ⅱ-10
花城テニスコート管理運営	手軽なスポーツとして利用していたくために安い料金設定にしており、また継続的に利用される方には年間利用券などを発行し利用促進を図りました。 ○利用者数14,368人(前年度 14,241人) ※前年度増減比 100.89%	当テニスコートは主に個人利用、運動公園テニスコートは主に団体利用と、両施設の特徴を生かした効率的利用を推進していきます。	有効性 B 効果性 B 効率性(コスト) B 効率性(人員) B	①継続	Ⅱ-10

<p>きらめきスタジアムの指定管理</p>	<p>敦賀市ソフトボール協会が指定管理者として施設の管理運営業務を行い、ソフトボール競技の楽しさや競技力向上を図るため、グラウンド整備等の適正な施設管理や、申し込みから許可書発行等の利用者への迅速な対応等、利用者サービスを行いました。 ○利用者数 8,246 人（前年度 7,409 人） ※前年度増減比 111.30%</p>	<p>指定管理者として適正に管理運営を行っています。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	<p>①継続</p>	<p>Ⅱ - 1 Ⅱ - 10</p>
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												
<p>武道館運営事業費</p>	<p>敦賀市シルバー人材センターが指定管理者（20 年度から）として、施設管理及び施設利用の申込みから許可書発行まで迅速に対応し、利用者サービスを行っています。また自主事業として骨の体操教室を開催し、利用者数の拡大に努めました。 ○利用者数 13,549 人（前年度 14,476 人） ※前年度増減比 93.60%</p>	<p>指定管理者として適正に管理運営を行っており、また自主事業を実施し、利用者数の拡大に努めています。</p>	<table border="1"> <tr><td>有効性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(コスト)</td><td>B</td></tr> <tr><td>効率性(人員)</td><td>B</td></tr> </table>	有効性	B	効果性	B	効率性(コスト)	B	効率性(人員)	B	<p>①継続</p>	<p>Ⅱ - 1 Ⅱ - 10</p>
有効性	B												
効果性	B												
効率性(コスト)	B												
効率性(人員)	B												

○総合運動公園

事業内容	取組み状況と成果	成果の分析と評価	今後の方向	分類
運動公園 陸上競技場改修事業	平成30年度に行った陸上競技場改修工事設計業務委託の結果を基に、第3種公認陸上競技場としての新規公認取得に向けた改修工事を行いました。 なお、本事業は令和2年度への繰越事業としております。 【工事内容】 ①構造物取壊（すきとり、暗渠排水、給水施設） ②インフィールド人工芝敷設 ③排水施設・競技施設・トラック下地塗装 ④助走路（メイン・バック）ウレタン塗装 トラックウレタン塗装	改修後施設の老朽化が著しく、第2種陸上競技場公認取消状態でしたが、インフィールド部分改修に着手し第3種取得を目指します。公認取得後もきれいな状態を保てるよう、日々の点検などにも注意を心がけ、安全で満足度の高い施設の維持に努めます。	①継続	Ⅱ - 1 Ⅱ - 10
運動公園 管理運営	運動公園内各施設を安全・安心な施設として維持するための管理運営を行いました。施設の老朽化により、予定外の修繕等が多々発生しましたが、早急に対応しました。主な修繕・工事としては、旧国体推進課事務室消防設備修繕、体育館消防（防排煙）設備修繕、ちびっ子広場鉄製総合遊具（西側樹脂滑り台）修繕、体育館消防ポンプフート弁取替修繕、体育館消防設備不良箇所修繕、汚水層ポンプ取替修繕、非常用発電装置部品取替修繕、高圧ケーブル取替修繕、真空遮断器取替修繕、陸上競技場会議室エアコン取替修繕、ローラー滑り台修繕などです。 さらに、簡易な修繕等は、職員で対応するなど、予算の削減に努めました。	施設の老朽化により、突発的な修繕が多々発生しましたが、早急に対応することが出来ました。今後もサービスの低下にならないよう、また早急な対応が出来るよう、日々の点検等にも注意を払い、安全で満足度の高い施設の維持に努めます。	①継続	Ⅱ - 1 Ⅱ - 10
運動公園 プール管理運営	清潔で安全な環境を維持し、利用者に満足度の高い水泳場を提供するため、快適で安全なプール環境の維持・管理に努めました。経年劣化等による大きな修繕としては、プール消防設備不良箇所修繕、プール温水ポイラ廻りバタフライ弁取替修繕、オゾン反応処理装置修繕、50mプール無試薬形遊離塩素計修繕、50mろ過機（R-1）廻り配管修繕、オゾン反応処理装置エアベルトバルブ修繕、25mプール用監視カメラ取替修繕、プール2階身障者トイレ自動ドア修繕等を実施しました。	施設の老朽化により、突発的な修繕が多々発生しましたが、早急に対応することが出来ました。今後も、利用者数の増加を目指し、早急な修繕等、利用に支障を来さぬよう対応を行い、清潔で安全な環境を維持し、利用者に満足度の高い施設の管理運営に努めます。	①継続	Ⅱ - 1 Ⅱ - 10

敦賀市教育委員会の自己点検・評価報告書に対する外部の知見

福井県立大学学術教養センター 黒田 祐二

はじめに

報告書やヒアリングを通して、各課が第6次総合計画後期基本計画と教育振興基本計画に対して真摯に取り組み、その点検・評価をしっかりと行おうとしていることが窺えた。このことに敬意を表したい。

以下に、両計画の点検・評価に関して、全体と各課に分けて意見を述べる。

1. 全体に関する意見

①「敦賀市教育委員会事務の自己点検・評価報告」（第6次総合計画後期基本計画の点検・評価）について

評価できる点は複数あるが、大きく以下の2点を挙げたい。第1に、複数の課において、現状分析と課題の整理、今後の方向性が明確に示されている。このようなPDCAに基づく自己点検・評価は、既存の取り組みを改善し、次の年度へとつなげるために不可欠である。第2に、自己点検・評価の資料として個票が復活した。個票には、予算の執行状況が記載されると共に、各事業でのPDCAサイクルを詳細に記載する欄が設けられている。そのため、丁寧な自己点検・評価が可能になる。また、個票を示すことは制度の目的や趣旨にも沿っていると思われる。

課題としては2つ挙げたい。1つ目は、数値目標の達成状況である。令和元年度が第6次総合計画後期基本計画の最終年度であり、本計画に対して総括的な評価を行う必要がある。達成状況を検討すると、17項目の内、目標に到達したのは4つ(約24%)であった。数値が全てではないが、残念な結果であったといえる。これを次期計画に活かして頂きたい。2つ目は、数値目標の設定の仕方についてである。各項目の数値目標を見ると、最終年度までに達成したい目標と毎年度達成したい目標が混在しているようである。例えば、「文化財整備活用計画」の「指定・登録文化財数」は前者に該当し、「博物館郷土文化力向上計画」の「見学者アンケートの満足度」は後者に該当すると思われる。そこで、次期計画においては、数値目標を設定するようになった経緯や理由も考慮しつつ、どのような種類の目標を設定するかを検討する必要がある(どうしても2種類の目標が混在してしまう場合には、評価・点検の対象となる年度だけでなく毎年度の数値を1ページ目の「数値目標との比較」に記載することが案として考えられるだろうか)。また、数値目標は根拠に基づいて(その数値にする理由をはっきりさせて)設定して頂きたい。

②「敦賀市教育振興基本計画の進行管理及び自己点検・評価調書」について

次期計画に向けて改善すべき点を2つ述べる。第1に、調書の中の「基本施策」と「計画目標」が十分に対応していないところが複数ある。計画目標を達成できたかど

うかを評価することで基本施策が実現されたかどうかを判断できるが、基本施策と計画目標が対応していなければ、この判断が適切にできなくなる。各計画目標を基本施策と照らし合わせて検討して頂き、基本施策の本来の主旨や内容に合うように修正して頂きたい（なお、詳細は以下の所管課のところで述べたのでそちらも参照されたい）。第 2 に、「主な実施内容」「計画の実施や目標達成に向けた今後の課題」「課題に対する今後の方向性」の文言が、前回（平成 30 年度）や前々回（平成 29 年度）のそれと同じであるところが複数ある。毎年何らかの工夫をしていけば、取り組み内容、課題、方向性も毎年異なるはずである。

2. 各課に関する意見

①教育総務課

- ・教育委員会の開催など、運営がしっかりなされている。
- ・その他の所管事務についても滞りなく行われていることが窺える。
- ・次期総合計画における目標の設定の仕方（1 の①へ）と次期教育振興基本計画の基本施策と計画目標との対応性（1 の②及び以下の②～⑤へ）について、周知・点検等をお願いし、問題があれば修正等を要請して頂きたい。
- ・次期総合計画について、数値目標は根拠に基づいて（その数値にする理由をはっきりさせて）設定して頂きたい。

②学校教育課

- ・地域教育コミュニティ推進事業と地域と進める体験推進事業において、特色ある取り組みを行っていることが高く評価できる。
- ・働き方改善事業において、教師の勤務時間の改善に向けて学校運営支援員と部活動指導員を配置した点も評価できる。
- ・昨年度および一昨年度に指摘したが、「まとめ」において「課題」の記述がない。課題の特定は自己点検・評価において不可欠であるためしっかり記述して頂きたい。
- ・「敦賀市教育振興基本計画」の調書において、基本施策と計画目標が十分に対応していないところがある。具体的には、基本施策④「個々のニーズに合わせた特別支援教育の推進」について、「特別支援学級・通級指導教室と通常学級の交流学习を推進する」という計画目標は対応していない（「交流学习が推進された」からといって「個々のニーズに合わせた特別支援教育が推進された」と結論することはできない）。また、基本施策②「自ら考え、行動する力を身につける教育の推進」と、計画目標「学校と地域が連携し、地域人材を活用することにより、ふるさと学習に興味をもつ子どもを増加させる」との対応性がやや乏しい。「自ら考え、行動する力」や「主体的な学び」を十分に反映した目標に変更するか、その目標を新たに追加することが望まれる。そして、基本施策⑤「健やかな体の育成を目指した健康・安全教育の推進」について、「ブラッシング教育やう歯罹患率を減少させます」という計画目標だけでよいのか検討して頂きたい。歯科領域だけでなく広く身体的健康について検討した方がよいのではないだろうか。次期計画では、基本施策の主旨

と内容を吟味して頂き、その主旨や内容を十分に反映した計画目標を設定して頂きたい。

- ・次期総合計画について、数値目標は根拠に基づいて（その数値にする理由をはっきりさせて）設定して頂きたい。

③生涯学習課

- ・「まとめ」において、過去3年度の利用者実績等を比較しながら分析し、数値の増減、課題の整理、今後の方向性が明確に示されている。これらの点は高く評価される。
- ・家庭教育に関する提言書に基づき、「家庭教育ハンドブック7つのすすめ」を作成し、保護者に配布するとともにホームページ上で紹介した。また、中学生の保護者を対象としたスマートフォン講座を開催した。平成30年度には保護者向けのSNS講座、平成29年度には思春期子育て講座をそれぞれ開催しており、一連の有意義な取り組みとして高く評価することができる。
- ・主催事業を充実させるために、新規の講座を開設したり住民のニーズを把握したりするなど様々な努力がなされている。この点も大変評価できる。
- ・図書館の事業では、敦賀出身の絵本作家の絵を用いた読書手帳を作成し、小中学校に配布した。読書好きな児童生徒の意欲をさらに高めるものとして評価できる。
- ・様々な努力がなされたが、公民館活動への参加者数と図書館の利用者数が目標値に届かなかった。数値が全てではないが、市民の生涯学習等をより推進できるように工夫をお願いしたい。
- ・「敦賀市教育振興基本計画」の調書において、計画目標が基本施策と対応していないところがある。例えば、基本施策⑫「地域等と連携した青少年の健全育成」に対して、「生涯学習施設や図書館の利用者数を増加させる」という計画目標は対応していない。また、基本施策⑪「社会教育施設の整備・充実」と計画目標「各種授業や施設の利用者を増加させます」は対応性が乏しい。次期計画では、基本施策の主旨と内容を吟味して頂き、その主旨や内容を十分に反映した計画目標を設定して頂きたい。
- ・次期総合計画について、数値目標は根拠に基づいて（その数値にする理由をはっきりさせて）設定して頂きたい。

④文化振興課およびその所管課

- ・指定・登録文化財の件数が目標値を上回った。また、博物館と山車会館では、市民の文化意識を高めるための工夫や利用者を増やすための工夫がなされている。これらの点を高く評価することができる。
- ・様々な努力と工夫がなされているが、文化行事参加者数、見学者アンケートの満足度、山車会館の利用者数が目標に届かなかった。行事内容、展示物の見せ方（視覚面での工夫に加えて、例えば、知識をもっていない来館者でも教養や視野を深めたり広げたりできるような説明等の工夫、あるいは、来館者が自らの生活とつなげて考えることができる説明等の工夫）、広報活動などの工夫により、状況の改善をお

願いたい。

- ・「敦賀市教育振興基本計画」の調書において、基本施策と計画目標が対応していないところがある。例えば、基本施策⑯「文化財の活用の推進」と計画目標「文化財の指定数を増加させる」（文化財の保護に関する目標）及び「文化行事参加者を増加させる」は対応していない。また、基本施策⑮「文化財の保護・支援」と計画目標「文化行事参加者を増加させる」も十分対応していない。次期計画では、基本施策の主旨と内容を吟味して頂き、その主旨や内容を十分に反映した計画目標を設定して頂きたい。
- ・次期総合計画について、数値目標は根拠に基づいて（その数値にする理由をはっきりさせて）設定して頂きたい。

⑤スポーツ振興課およびその所管課

- ・「まとめ」において、目標値と比較しながら利用者実績等が記述されており、要因分析、課題、今後の方向性についてももしっかり記述されている。これらの点を高く評価することができる。
- ・様々な努力がなされているが、国体の開催を除き、4つの項目が目標に届かなかった。次期計画において改善をお願いしたい。
- ・「敦賀市教育振興基本計画」の調書において、基本施策と計画目標が十分に対応していないところがある。具体的には、基本施策⑳「スポーツ施設の整備」に対して、計画目標「スポーツ施設や総合運動公園の利用者を増加させる」は十分に対応していない。「施設利用者が増えたということは、施設が整備されている証拠である」という理屈はわからなくもないが、施設の整備状況と利用状況は必ずしもリンクしないことがある（例えば、利用者は増えても施設面で潜在的に危険な箇所がある場合や、利用者は減っても施設面が十分に整備されている場合がある）。基本施策⑳の実行状況を適切に評価するためには、施設の整備（あるいは整備状況）と直接的に関係する目標を設定することが望ましい。
- ・次期総合計画について、数値目標は根拠に基づいて（その数値にする理由をはっきりさせて）設定して頂きたい。

敦賀市教育委員会の自己点検・評価報告書に対する外部の知見

福井県立大学 桑原美香

I. はじめに

昨今、文部科学省の教育方針が改訂されており、教育現場では毎年対応に追われている。とりわけ、デジタル授業や論理的思考力を育てる教育等、教員自身が受けてきたものとは異なる教育手法が求められ、教員教育や ICT 機器等の環境整備は喫緊の課題である。併せて、社会の構造変化のスピードが増すにつれ、子どもの貧困や支援を必要とする児童生徒割合の増加、IT 化の進展による犯罪被害の変化、自然災害の増加に伴う避難所としての学校の役割といった、家庭・地域から求められる要求は上がっている。だが、人口減少社会においては、時間的、財政的制約も大きく、地区別人口構成の将来予測に基づいた学校再編や、施設の長寿命化・更新はやむを得ない。財政状況を踏まえたうえで、シナリオ別の地理的・時間的行程管理が必要であろう。

日々の対応だけでも膨大な業務量があることは想像に難くない。しかし、一定期間ごとに来し方行く末を思う場は必要である。3年後、5年後のあるべき像を明確にし、そのために来年すべきこと、明日すべきことを一步一步着実に歩まねばならない。そのための場が当該自己点検・評価とヒアリングである。

II. 評価手法について

一部ではあるが、計画目標値と事業の目標とが合致していないものが見られる。指標の設定が難しい事業や、部署によっては単年度では劇的な改善等が見られない分野もあるためか、例年同じ文言で数値のみ書き換えている課もある。今後の方向に関しても、大半が「継続」とされ、成果の分析や評価は単なる実施内容の報告という課もあることから、「自己評価」の表を埋めることが目的になっているように見受けられる。自己点検・評価は、課題を抽出し、その対策と検証をすることが目的である。例えば、利用者や参加者が減ったことの原因を人口減少や高齢化だけで終わらせるのではなく、具体的にどの世代、どの地区の人数が減ったか、提供する行政サービスとのミスマッチが生じていなかったか、どうすればそれを埋められるのか、考えるきっかけとするための評価である。地方自治体においても EBPM が求められている昨今、成果を分析し企画立案に生かしてゆくべきである。

とはいえ近年、自己評価の報告書や調書作成に関して、全国的にも職員の作業負担が大きいことが問題視されている。そこで、例えば毎年のヒアリング対象部署を3つぐらいに分け、3年ですべての評価を終えるようにしてはどうだろうか。1つの部署に時間をかけることができるため、現地を見たり、現場の方の声を聞いたり、他市や企業での取り組みの導入可能性を探るなどしながら、活かされる「評価調書」にできるのではないだろうか。

Ⅲ. 個別評価

【学校教育課】

- ① 部活動指導員…必要人数に満たなかった。部活動の時間帯にだけ来てもらうのは困難。だが今後、後述のように中学部活の地域移行に対応せねばならない。スポーツ振興課や総合運動公園との連携が急務となろう。
- ② 冬季の自転車通学生への通学費補助は教育振興補助金。今後は、学校再編に伴いスクールバスの運行数が増える予定だが、こちらはスクールバス運行費。児童・生徒間で時間当たり(もしくは km あたり)の補助額に不公平がないよう調整が必要ではないか。
- ③ 地域と進める体験推進事業…博物館等、他機関(施設)等との連携はできないか。
- ④ ふくいので場産学校給食推進事業…揚げ物が多い印象。地場産食材を子どもの好きそうなメニューにするのも良いが、家庭では作られなくなりつつある伝統料理や食材でないと、ふるさとを誇りに思う…に繋がらないのではないか。
- ⑤ 図書購入費…市立図書館や他校(小中学校)などとの連携により、図書の重複を極力防ぐ、除籍、廃棄をなくすことはできないか。今後は、School e-Library のような学校向けサブスクリプション方式の図書館への移行も検討する必要があるのではないか。

【学校給食センター】

- ① 文部科学省の基準を満たす必要があるため、年間稼働日(総時間)からして、設備や雇用面でロスが生じる点は否めない。長期計画として、小中学校以外への調理済み食材や配食サービス等、多機能化の可能性も検討する必要があるのではないか。
- ② 今後は、給食調理員や、食品納入業者数が減ることが予想される。中長期的に考慮すべき点ではないか。
- ③ アレルギーや宗教的配慮を必要とする給食に要望はないか。
- ④ ふくいので場産学校給食推進事業…上述のようにメニューの検討が必要。ただ、JA などと連携し、収穫時期を考慮した献立づくりを行っておられ、安定的な地場産食材の使用率に努めている点は評価される。

【生涯学習課】

- ① 施設利用者数に選挙関係の利用者数は含めるべきではない
- ② 高齢者の参加が多いが、孫と楽しめる講座など、幼少期から公民館等へ行く習慣ができることで、こども自身や親世代も新たなコミュニティを見つけることができるのではないか。
- ③ 生涯学習のための講座、ニーズに対応させて新設、追加などがなされている

【図書館】

- ① 読書手帳…取り組みとして高く評価される。ただし、以下の細かい点については更なる改善があると良いのではないか。

- ・実物は、小学校低学年が書き込むには小さいのではないか。
 - ・配って終わりではなく、実際に使われているかが重要。
 - ・続けてもらうための工夫(御朱印帳やインスタグラム等の要素を取り込む等)
 - 例えば、返却時に読んだ本の表紙のシールがもらえる、タイトル等だけでなく、ハッシュタグ#をつける感覚で、感動した言葉など一言コメントがかけるとよいのでは?)
- ② 雑誌スポンサー制度…素晴らしい取組み。事業の評価をAにしてもよいのではないか
- ③ 図書利用推進事業…上述のように、学校図書館との連携も視野に入れ、極力図書の重複をなくし、除籍、廃棄をなくすべきではないか。
- ④ DVD視聴者数の減少に鑑み、購入ジャンルを検討するべきではないか。近年、民間オンラインレンタル等が普及していることから、図書館として提供するDVDは、見たいが高価なシリーズものや市独自のもの等ではないか。小中学校や公民館等とも情報共有し購入リストを考え、優先貸出等を行うべきではないか。
- また、CDやDVDと図書のパッケージ化/コラボ展示(このDVDを観るとこの本がさらに良く分かります的な…)による活用方法を検討してはどうか。

【少年愛護センター】

- ① 現場でも認識されているように、目的と手段とが合っていない。声かけ人数が政策目標ではなく、児童・生徒が気軽に相談できる環境整備ではないか。犯罪やいじめ等、ネットトラブル防止のため早急に具体的な対応策を検討する必要がある。補導員だけではなく、あらゆるPTAを巻き込んだネットパトロールや、SNS等を用いた本人による相談のための場所整備等も検討を進めるべきである。

参考：北海道教育委

(<http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ssa/net/patrol/manual.pdf>)

【文化振興課】

- ① 「奥の細道」つるが芭蕉紀行全国俳句大会…中学校や児童クラブの俳句教室等との連携等の工夫が高く評価される。実際にこどもの部の投句が昨年比2倍以上に増えている。

【博物館】

- ① 資料のデータベース化事業…検索システムへの登録や公開が追いついていない点が課題として挙げられ、時間がないことが原因とされていたが、今一度、資料化プロセスを洗い出し、具体的にどの業務で、なぜ滞っているのかを現場で共有する必要があるのではないか。それにより、例えば、撮影、パソコン業務、単純作業ごとに、外部委託や資料整理ボランティアを活用するなど具体的な解決策に繋げることができる。
- ② 資料のデータベース化は、構築されれば自動的に活用されるわけではない。ターゲットを明確にすることで、上記作業の優先順位づけができるのではないか。手

始めとして地域学習をする児童・生徒を対象に、当該年次の教科書に準拠した敦賀独自のパッケージ教材(学習指導案と児童・生徒配布用資料、復習授業用 CD・DVD/パワーポイント等)ができるとういのではないか。まずは時代や場所を絞り、教員等とも情報共有することで、活用されるデータベースになると考えられる。
参考：長崎歴史文化博物館 (<http://www.nmhc.jp/teacher/plan.html>)

【みなとつるが山車会館】

- ① 当該施設は観光施設でありながら教育施設としての役割も持っている。前者の役割としての PR、とりわけクルーズ船利用者をターゲットにした観光施策を積極的に行っておられる点は大変評価される。

後者の役割としては、近隣県向けに校外学習向けの PR 活動等をされており、情報発信の工夫も評価される。実際に視察もあったようだが、児童・生徒に来ていただくためには、引き続きの情報発信を続けるとともに、(上述のような)パッケージ教材を用意し、滞在時間や対象学年に合わせたモデルコース、学習指導案(対応する教科書ページ、単元の目標、評価方法等、その後の授業の展開案)等を用意しておくのはどうだろうか。当該施設は戦国から江戸時代を中心に、足を延ばせば第二次大戦時の歴史も扱うことができ、教育現場に対して訴求力の高いコンテンツを備えており、更なる活用が期待される。

【スポーツ振興課・総合運動公園】

- ① 県民スポーツ祭の参加者数減少傾向にあり、参加者が揃わない競技もあるようだが、PR 方法の改善や参加費の補助により増えるものではないと考えられる。人口における高齢者割合が高まる今後を見据え、体力測定がてら 1 人でも気軽に参加できるコーナーも検討してはどうか。
- ② 中高校生向け部活動の地域・民間移行化の実施を見据え、空白地域における指導者育成と環境整備が急務となるであろう。引き続きスポーツリーダーセミナーやコンディショニングセミナー等を開催するとともに、安全管理や会計、生徒の移動等に関して保護者や地域、競技団体、企業への協力要請や調整等、導入時期から逆算したスケジュール設計が急務となるろう。

敦賀市教育委員会事務の自己点検・評価

■なぜ自己点検・評価をするのか？

- ◇ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律により規定されています。
- ◇ 法の趣旨は、市民への説明責任、効果的な教育行政の推進にあります。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、教育委員会の責任体制の明確化が謳われ、平成20年4月1日から、教育委員会の活動の自己点検・評価を行うことが義務付けられ、議会に報告し公表することとされました。

また、これを行うに当たって、学識経験者の知見を活用することとされました。従って、当市においても、平成20年度から自己点検・評価を実施しています。

【参考】 地方教育行政の組織及び運営に関する法律 抜粋

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

■何を評価するのか？

- ◇ 教育委員会の権限に属する事務の管理・執行状況について評価することになります。

教育委員会の権限に属する事務とは次のとおりです。

地方自治法 第180条の8に教育委員会の事務について規定があります。この中の「別に法律の定めるところ」とは、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」も指しており、第21条に教育委員会の管理・執行する事務の内容が規定されています。

【参考】 地方自治法 抜粋

第180条の8 教育委員会は、別に法律の定めるところにより、学校その他の教育機関を管理し、学校の組織編制、教育課程、教科書その他の教材の取扱い及び教育職員の身分取扱いに関する事務を行い、並びに社会教育その他教育、学術及び文化に関する事務を管理し及びこれを執行する。

【参考】 地方教育行政の組織及び運営に関する法律 抜粋
(教育委員会の職務権限)

第21条 教育委員会は、当該地方公共団体が処理する教育に関する事務で、次に掲げるものを管理し、及び執行する。

- (1) 教育委員会の所管に属する第30条に規定する学校その他の教育機関（以下「学校その他の教育機関」という。）の設置、管理及び廃止に関すること。
- (2) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の用に供する財産（以下「教育財産」という。）の管理に関すること。
- (3) 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
- (4) 学齢生徒及び学齢児童の就学並びに生徒、児童及び幼児の入学、転学及び退学に関すること。
- (5) 教育委員会の所管に属する学校の組織編制、教育課程、学習指導、生徒指導及び職業指導に関すること。
- (6) 教科書その他の教材の取扱いに関すること。
- (7) 校舎その他の施設及び教具その他の設備の整備に関すること。
- (8) 校長、教員その他の教育関係職員の研修に関すること。
- (9) 校長、教員その他の教育関係職員並びに生徒、児童及び幼児の保健、安全、厚生及び福利に関すること。
- (10) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の環境衛生に関すること。
- (11) 学校給食に関すること。
- (12) 青少年教育、女性教育及び公民館の事業その他社会教育に関すること。
- (13) スポーツに関すること。
- (14) 文化財の保護に関すること。
- (15) ユネスコ活動に関すること。
- (16) 教育に関する法人に関すること。
- (17) 教育に係る調査及び基幹統計その他の統計に関すること。
- (18) 所掌事務に係る広報及び所掌事務に係る教育行政に関する相談に関すること。
- (19) 前各号に掲げるもののほか、当該地方公共団体の区域内における教育に関する事務に関すること。

(事務の委任等)

第25条 教育委員会は、教育委員会規則で定めるところにより、その権限に属する事務の一部を教育長に委任し、又は教育長をして臨時に代理させることができる。

- 2 前項の規定にかかわらず、次に掲げる事務は、教育長に委任することができない。
 - (1) 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること。
 - (2) 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること。
 - (3) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること。
 - (4) 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
 - (5) 次条の規定による点検及び評価に関すること。
 - (6) 第27条及び第29条に規定する意見の申出に関すること。
- 3 教育長は、教育委員会規則で定めるところにより、第1項の規定により委任された事務又は臨時に代理した事務の管理及び執行の状況を教育委員会に報告しなければならない。
- 4 教育長は、第1項の規定により委任された事務その他その権限に属する事務の一部を事務局の職員若しくは教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員（以下この項及び次条第1項において「事務局職員等」という。）に委任し、又は事務局職員等をして臨時に代理させることができる。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律を受け、敦賀市教育委員会教育長事務委任規則及び敦賀市教育委員会事務局組織規則を定め、事務の具体的な内容を示しています。また、施設の設置条例において、設置の目的など重要な事項を規定しています。

【参考】 ○敦賀市教育委員会教育長事務委任規則

平成 15 年敦賀市教育委員会規則第 13 号

(教育長への委任)

第 2 条 教育委員会は、その権限に属する事務のうち、次の各号に掲げる事項を除き、教育長に委任するものとする。

- (1) 教育行政の運営に関する一般方針を定めること。
- (2) 教育委員会の所管に属する学校、公民館その他の教育機関(以下「教育機関」という。)の設置及び廃止に関すること。
- (3) 県費負担教職員の懲戒、任免その他の進退について内申に関すること。
- (4) 県費負担教職員のサービスの監督の一般方針を定めること。
- (5) 教育長並びに教育委員会事務局及び教育機関の課長補佐(同等の者を含む。)以上の職員の任免に関すること。
- (6) 前 3 号に定めるもののほか、人事の一般方針を定め及び懲戒を行うこと。
- (7) 重要な教育機関の財産の取得について、市長に申出を行うこと。
- (8) 教育委員会規則等の制定又は改廃を行うこと。
- (9) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案について、市長に意見の申出を行うこと。
- (10) 法令、条例等に基づく各種専門委員の任命、委嘱等に関すること。
- (11) 校長、教員その他の教育関係職員の研修の一般方針を定めること。
- (12) 児童及び生徒の就学すべき学校の区域を設定し、又は変更すること。
- (13) 教科用図書の採択に関すること。
- (14) 文化財の指定及び解除に関すること。
- (15) 請願、陳情、訴訟及び異議申立てに関すること。
- (16) 教育に関する表彰に関すること。
- (17) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関すること。

教育委員会の事務と教育長への事務委任の関係は下表のとおりです。

(1)教育委員会の事務と教育長への事務委任の関係	
地方教育行政の組織及び運営に関する法律 (抜粋)	敦賀市教育委員会教育長事務委任規則
教育委員会の職務権限	教育長に委任されない事務
(1) 教育委員会の所管に属する第30条に規定する学校その他の教育機関（以下「学校その他の教育機関」という。）の設置、 管理 及び廃止に関すること。	1 教育行政の運営に関する一般方針を定めること。
(2) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の用に供する財産（以下「教育財産」という。）の管理に関すること。	2 教育委員会の所管に属する学校、公民館その他の教育機関（以下「教育機関」という。）の設置及び廃止に関すること。
(3) 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。	3 県費負担教職員の懲戒、任免その他の進退について内申に関すること。
(4) 学齢生徒及び学齢児童の就学並びに生徒、児童及び幼児の入学、転学及び退学に関すること。	4 県費負担教職員のサービスの監督の一般方針を定めること。
(5) 教育委員会の所管に属する学校の組織編成、 教育課程 、 学習指導 、 生徒指導 及び 職業指導 に関すること。	5 教育長並びに教育委員会事務局及び教育機関の課長補佐（同等の者を含む。）以上の職員の任免に関すること。
(6) 教科書 その他の教材の取扱いに関すること。	6 前3号に定めるもののほか、人事の一般方針を定め及び懲戒を行うこと。
(7) 校舎その他の施設及び教具その他の設備の整備に関すること。	7 重要な教育機関の財産の取得について、市長に申出を行うこと。
(8) 校長、教員その他の教育関係職員の研修に関すること。	8 教育委員会規則等の制定又は改廃を行うこと。
(9) 校長、教員その他の教育関係職員並びに生徒、児童及び幼児の保健、安全、厚生及び福利に関すること。	9 教育予算その他議会の議決を経るべき議案について、市長に意見の申出を行うこと。
(10) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の環境衛生に関すること。	10 法令、条例等に基づく各種専門委員の任命、委嘱等に関すること。
(11) 学校給食に関すること。	11 校長、教員その他の教育関係職員の研修の一般方針を定めること。
(12) 青少年教育、女性教育及び公民館の事業その他社会教育に関すること。	12 児童及び生徒の就学すべき学校の区域を設定し、又は変更すること。
(13) スポーツに関すること。	13 教科用図書 の採択に関すること。
(14) 文化財の保護に関すること。	14 文化財の指定及び解除に関すること。
(15) ユネスコ活動に関すること。	15 請願、陳情、訴訟及び審査請求に関すること。
(16) 教育に関する法人に関すること。	16 教育に関する表彰に関すること。
(17) 教育に係る調査及び基幹統計その他の統計に関すること。	17 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関すること。
(18) 所掌事務に係る広報及び所掌事務に係る教育行政に関する相談に関すること。	
(19) 前各号に掲げるもののほか、当該地方公共団体の区域内における教育に関する事務に関すること。	

(注)点線は、一部分関連するもの

◇ 評価の対象となる事務は、「評価項目」として次のように分類します。

私達は、毎日、法令や規則に基づき事務を執行しています。事務の自己点検・評価を行う場合は、具体的で誰でも理解できるよう分類する必要があります。

それでは、どのように分類し、どのような評価項目を設定するかということですが、先に述べたように私達は法令に基づいて仕事をしています。仕事には必ず費用が伴いますので、予算の区分に従い分類することが簡単で評価しやすい方法です。また、毎年9月議会において、前年度の「主要な施策の成果に関する説明書」により議会へ報告しています。

この自己点検・評価報告書も、議会へ報告することとなっていますので、これを利用することによって議会への説明も容易になります。

従って、予算の事業名の小事業までを、「評価項目」とし、評価項目ごとに評価調書を作成します。

■誰が評価するのか？

◇ 事務の点検・評価の担当者は、事務分掌における主担当者を中心に課（所）内にて一次評価します。 ※評価調書の作成

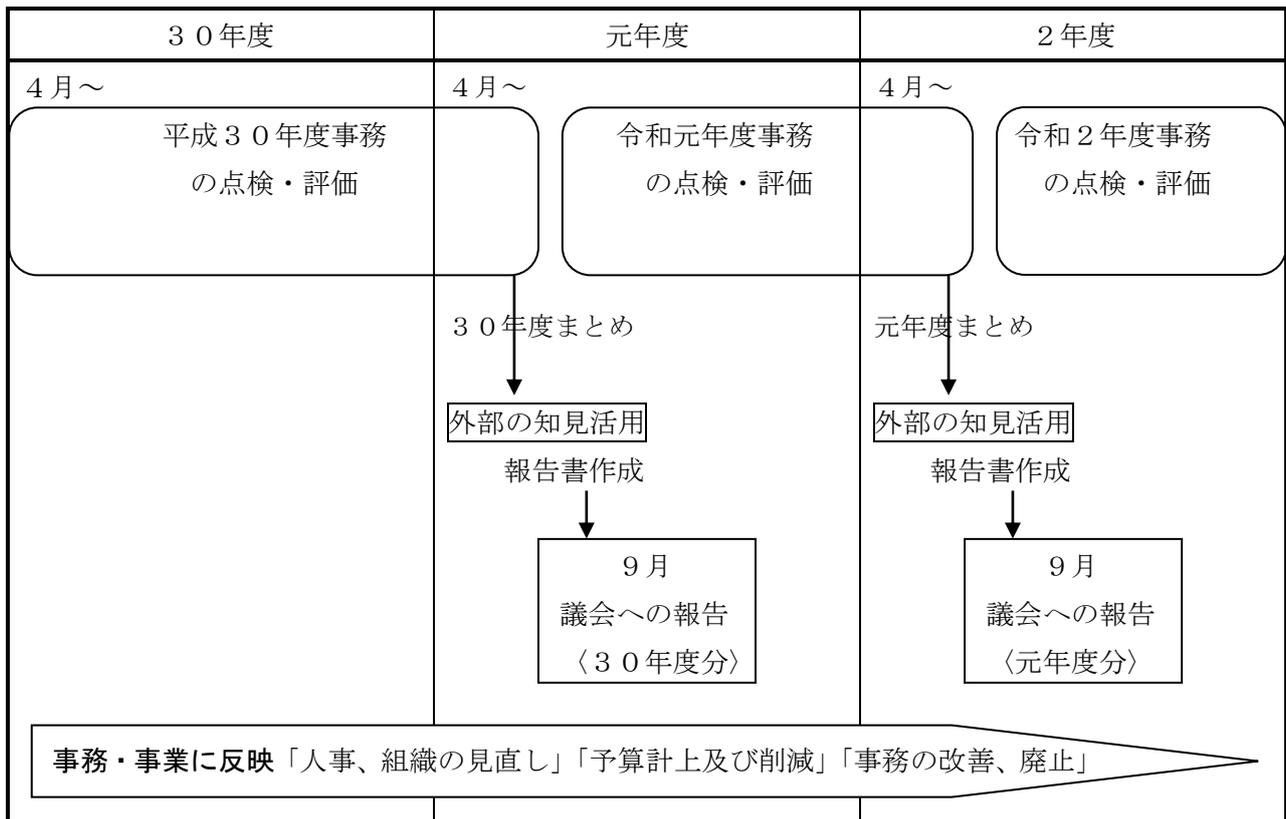
◇ 評価調書を教育総務課にて取りまとめたのち、教育委員会が二次評価します。

※ 教育委員会の職務として、教育委員会で審議します。

■いつ評価するのか？

◇ 当該年度の翌年に、評価を実施することになります。

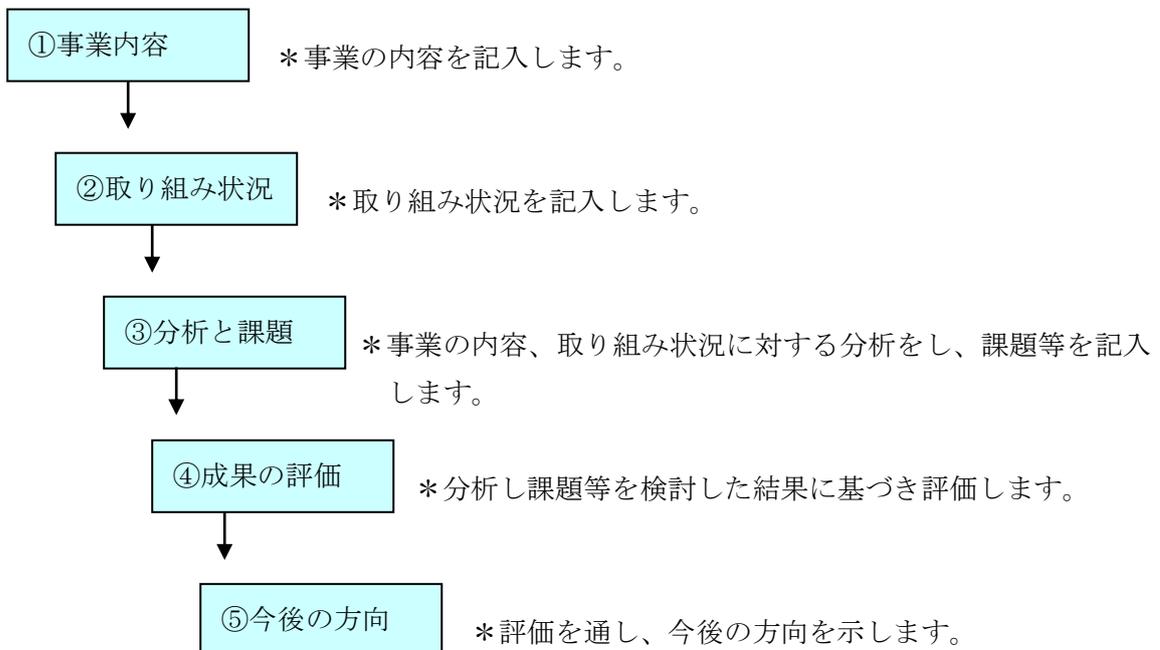
◇ 評価のスケジュール等については、次頁のとおりになります。



■自己点検・評価の方法

◇ 設定した評価項目について、次のように評価します。

評価項目を設定したら、評価調書を作成します。評価の流れは、次のとおりです。



評価の方法は次のとおりです。

1. 事業の概要と取り組み状況

- ・予算の事業の概要を記入します。予算の事業概要の欄に記入のない場合も記載します。
- ・取り組み状況は、具体的に実施年月、参加者数、購入量等を記載します。

2. 成果分析と評価

- ・前年度の評価において今後すぐに取り組む事項とした内容を記載のうえ、具体的な取り組みにつながった点と内容を記載します。

また、具体的な取り組みにつながらなかった場合もその内容を記載します。
総合評価は、以下の点等を考慮します。

- ・他自治体との比較 *先進的な取り組みか又は他市に遅れているかなど
- ・社会の動向や市民の要求に対する分析 *指標やアンケートなど
- ・情報公開、説明責任、環境に対する配慮など

3. 成果の評価

- ・分析した結果を有効性、効果性、効率性、について自己評価します。

判定の基準				
		A 前進	B 維持	C 後退
有効性		・計画通り目標が達成できたもの	維持	・目標を下回る結果に終わったもの ・目標が達成できなかったもの又は目標達成に目途が立たないもの
効果性		効果（予定通り進捗）があった	維持	効果がなかった
効率性	コスト	効率が良かった	維持	効率が悪かった
	人員	効率が良かった	維持	効率が悪かった

※「B 維持」判定は、どちらとも判断できないもの又は判定不能も含む。

4 今後の方向

- ・①継続 ②完了 ③拡大 ④縮小 ⑤転換 ⑥中止 の6項目で示します。
- ・項目の内容を、「すぐに取り組む事項」と「中長期的な検討課題」として具体的に記入します。

■外部評価は誰がするのか？

◇ 自己点検・評価に対する外部の知見の活用について、外部組織から委員を選任します。

- (1) 外部評価の組織の決定
- (2) 評価者の選任
- (3) 評価会議の設置・開催
- (4) 評価会議の意見書のまとめ

■報告書の作成

◇ 評価調書をまとめ外部の知見を盛り込み報告書を作成します。

■議会への報告書の提出と公表

- (1) 報告書の提出

報告書は、毎年9月議会に提出します。

- (2) 報告書の公表

報告書は、ホームページにおいても公表いたします。

■評価結果を活かすには

◇ 評価結果を事務に反映します。

- (1) 人事、組織を見直します。
- (2) 予算の計上又は削減をします。
- (3) 事務の改善、廃止をします。

◇分類表

大項目	中項目	小項目	担当課	
I 教育委員会が管理・ 執行する事務	1	教育行政の運営に関する一般方針を定めること。	(1)教育振興基本計画の策定 (2)教育要覧の作成	教育総務課
	2	教育委員会の所管に属する学校、公民館その他の教育機関の設置及び廃止に関すること。	(1)学校の統廃合 (2)学校の適正配置 (3)公民館の設置 (4)教育機関の設置及び廃止	教育総務課 学校教育課 生涯学習課
	3	県費負担教職員の懲戒、任免その他の進退について内申に関すること。		学校教育課
	4	県費負担教職員のサービスの監督の一般方針を定めること。		学校教育課
	5	教育長並びに教育委員会事務局及び教育機関の課長補佐以上の職員の任免に関すること。		教育総務課
	6	人事の一般方針を定め及び懲戒を行うこと。		教育総務課
	7	重要な教育機関の財産の取得について、市長に申出を行うこと。		全課
	8	教育委員会規則等の制定又は改廃を行うこと。		教育総務課
	9	教育予算その他議会の議決を経るべき議案について、市長に意見の申出を行うこと。		全課
	10	法令、条例等に基づく各種専門委員の任命、委嘱等に関すること。		全課
	11	校長、教員その他の教育関係職員の研修の一般方針を定めること。		学校教育課
	12	児童及び生徒の就学すべき学校の区域を設定し、又は変更すること。	(1)通学区域審議会	学校教育課
	13	教科用図書の採択に関すること。		学校教育課
	14	文化財の指定及び解除に関すること。	(1)文化財の指定 (2)文化財の指定解除	文化振興課
	15	請願、陳情、訴訟及び異議申立てに関すること。		教育総務課
	16	教育に関する表彰に関すること。	(1)教育功労	教育総務課
	17	教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関すること。		教育総務課
II 教育委員会が管理・ 執行する事務を教育 長に委任する事務	1	教育財産の管理に関すること。		全課
	2	学齢生徒及び学齢児童の就学並びに生徒、児童及び幼児の入学、転学及び退学に関すること。		学校教育課
	3	学校の教育課程、学習指導、生徒指導及び職業指導に関すること。		学校教育課
	4	教科書その他の教材の取扱いに関すること。		学校教育課
	5	校舎その他の施設及び教具その他の設備の整備に関すること。		教育総務課 学校教育課
	6	校長、教員その他の教育関係職員並びに生徒、児童及び幼児の保健、安全、厚生及び福利に関すること。		学校教育課
	7	学校その他の教育機関の環境衛生に関すること。		全課
	8	学校給食に関すること。		学校教育課
	9	青少年教育、女性教育及び公民館の事業その他社会教育に関すること。		生涯学習課
	10	スポーツに関すること。		スポーツ振興課
	11	文化財の保護に関すること。		文化振興課
	12	ユネスコ活動に関すること		学校教育課
	13	教育に関する法人に関すること		教育総務課
	14	教育に係る調査及び基幹統計その他の統計に関すること。		教育総務課
	15	所掌事務に係る広報及び所掌事務に係る教育行政に関する相談に関すること。		全課
	16	前各号に掲げるもののほか、当該地方公共団体の区域内における教育に関する事務に関すること。		全課

Ⅲ 上記に分類されない ものとして、教育委 員会自身の活動	1	教育委員会の会議	(1)教育委員会会議の開催	教育総務課
	2	教育委員の研修		教育総務課